

第一 大同電力株式會社七分利付米貨社債關係

第一 大同電力株式會社七分利付米貨債關係

(一) 大同電力株式會社米貨金壹千五百萬弗七分利減價基金附

壹番抵當エー号社債信託證書譯文

大正十三年八月一日日本帝國法律ニ準據シテ設立現存スル法人ニシテ日本東京市ニ本店ヲ有スル大同電力株式會社(英語ニテ、ダレート・コンソリデーテッド・エレクタリツク・パワー・コンパニ
ト・リミテッド)(以下會社ト稱ス)ヲ第一當事者トシ日本帝國法律ニ準據シテ設立現存スル法人ニシ
テ日本東京市ニ本店ヲ有スル株式會社日本興業銀行(英語ニテ、ゼ・インダストリアル・バンク・オ
フ・ジャパン・リミテッド)(以下受託會社ト稱ス)ヲ第二當事者トシ本契約ヲ締結ス。

會社ハ適法ナル取締役會及株主總會ノ決議ニ基キ會社ノ短期銀行借入金及其他ノ短期借用金ヲ返済
シ又大正十四年六月一日或ハ其以前ニ滿期到來スル未償還社債ヲ償還シ其他會社ノ目的ニ供スル資金
ヲ準備スルノ必要上擔保附社債總額金壹千五百萬弗也(此邦貨換算額金參千九萬圓)ヲ發行シ其支拂
保證トシテ次に記載スル會社ノ財産上ニ抵當權ヲ設定スルモノトス右社債ハ之ヲ一番抵當七分利減價
基金附金貨社債エー號(以下社債ト稱ス)ト稱シ債券ハ無記名式トシ壹千弗券及五百弗券ノ二種トシ

受託會社之ヲ證明シ且亞米利加合衆國紐育州法ニ準據シテ設立現存スル法人セントラル・ユニオン・トラスト・コンパニー・オブ・ニューヨーク(以下立會署名者ト稱ス)之ニ立會署名スルモノトス社債日附ヲ大正十三年八月一日拂渡期日ヲ大正十三年八月一日トシ大正十三年八月一日ヨリ年七分ノ割各ニ依ル利息ヲ附シ年三回即チ二月一日及八月一日ニ之ヲ支拂ウモノトス社債元利金ノ支拂ハ紐育州紐育市マンハツタン区ニ存在スルテイロシリド・エンド・コンパニー(紐育州法ニ準據シテ設立現存スル株式合資組合ニテ以下「財務擔當者」ト稱ス)本店ニ於テ大正十三年八月一日現在ノ品位量目又ハ之ト同等ノ亞米利加合衆國金貨弗ヲ以テ之ヲ爲スモノトシ又社債權者ヲ撰擇ニ從テ英國倫敦市ニ於テジエー・ヘンリー・シユレーダー・エンド・コンパニー(英國倫敦市ニ本店ヲ有スル組合)本店ニ於テ大不列顛王國金貨ヲ以テ金貨壹磅ニ對シ四・八六六五弗ノ換算率ニ依リ之ヲ爲スモノトス元利金ニ關シテハ戰時平時ヲ問フズ社債券又ハ利札ノ所持人カ日本政府ト親善關係ニ在ル國家ノ國籍ヲ有スルト否トヲ問フズ債券利札ノ所持人ノ國籍又ハ住所地ニ關シ何等ノ宣明書ヲ徴シ若クハ調査ヲ爲スコトナク之ガ支拂ヲ爲スベキモノニシテ社債權者カ其當時日本ニ居住セザル限り本社債ニ關シ又ハ之ヲ擔保スル財産又ハ社債權者ノ爲メ設定セラレタル權利ニ關シ又ハ本社債ヨリ生ジ若クハ生ズベキ利益收入又ハ其他ノ支拂ニ對シ又ハ本社債券ヲ所有スルコトニヨリ或ハ本書ノ規定ヨリ生ズル利益、權利ヲ享有スルコトニヨリ其他如何ナル場合ニ於ケルヲ問フズ社債權者ニ對シ現ニ課セラルル税金若ク

ハ日本政府又ハ行政團體又ハ稅務當局ニ依リ現行若クハ將來ノ法規ニ基キ課セラルルコトアルベキ一切ノ税金ニ對スル控除ヲ爲サザルモノトス斯ル税金ハ一切會社ニ於テ支拂ウベキモノトス。

本社債ハ大正二十三年八月一日以前ニ於テハ減債基金ノ運用ニ依ル一部償還ヲ爲スノ外償還セザルモノトシ前記期日及其以後ニ於テハ會社ノ欲スル處ニ依リ後ニ記載スル方法及價額ニ依リ利息支拂日ニ於テ全部又ハ一部ノ償還ヲ爲スベキモノトス。

債券、利札及債券各別ニ裏書セラルベキ受託會社ノ證明及立會署名者ノ署名ノ方式要項ハ左ノ書式ニ依ルベキモノニシテ債券發行ノ際凡テノ要項ヲ適當ニ記入スベキモノトス。

(債券ノ書式)

第 號

金 弗(金磅志片)

日本帝國

大同電力株式會社(グレート・コンソリデーテッド・エレクトリック・パワー・コンパニー・リミテッド)

一番抵當七步利減債基金附金貨社債工一號一九二四年(大正十三年)八月一日附、拂渡期日一九四四年(大正十三年)八月一日 日本帝國法律ニ準據シテ設立現存スル法人大同電力株式會社(グレイ

ト・コンソリテテツド・エレクトリック・パワート・コンパニート・リミテツド）（以下會社ト稱ス）ハ本債券所持人ニ對シ金 弗也或ハ所持人ノ選擇ニ從イ金 磅 志 片及一九二四年（大正十三年）八月一日ヨリ起算シ年七歩ノ利息ヲ前記元金支拂濟ニ至ル迄毎年二回即チ二月一日及八月一日ニ於テ支拂ウベキコトヲ約ス、但利息ハ支拂ハ各半年分ノ利息ヲ表示スル添附利札ノ提出ニ依リ之ト引換ニ爲サルベキモノトス本社債元利金ノ支拂ハ亞米利加合衆國紐育州紐育市マンハツタン区所在テイロン・リード・エンド・コンパニート本店若クハ其承繼人ノ本店ニ於テ一九二四年（大正十三年）八月一日現在ノ品位置目若クハ之ト同等ノ亞米利加合衆國金貨弗ヲ以テ爲シ又ハ所持人ノ選擇ニ從イ英國倫敦市所在ジェー・ヘンリー・シユレーダー・エンド・コンパニート本店若クハ其承繼人ノ本店ニ於テ大不列顛王國ノ金貨ヲ以テ爲ス。

本社債元利金ハ戰時平時ヲ問フズ債券又ハ利札所持人ガ日本政府ト親善關係ニ在ル市民タルト否トヲ問フズ所持人ノ市民權又ハ住所地ニ關シ無條件ニテ且何等ノ調査ヲ爲スコトナク之ガ支拂ヲ爲スベキモノニシテ債券又ハ利札所持人ガ日本ニ住居セザル限り本社債ノ元金並ニ利息ハ本證書中後ニ記載セル規定ニ詳カナル如キ本社債ニ對スルト又ハ社債權者ニ對スルト又ハ其他ノ理由ニ因ルトヲ問フズ現ニ課セラレル税金若クハ日本政府又ハ行政團體又ハ稅務當局ニ依リ現行若クハ將來ノ法規ニ基キ課セララルコトアルベキ一切ノ税金ニ對スル控除ヲ爲スコトナク支拂ワルベキモノニシテ斯ル税金ハ一切會社ニ於テ支拂ウベキモノトス。

本債券ハ會社ガ適法ニ發行シタル一番抵當七歩利減債基金金貨社債エー號ト稱セララル社債券ノ一ニシテ社債總額ハ金千五百萬弗、債券ノ種類ハ一千弗券及五百弗券ノ二種ヨリ成リ凡テ無記名式トシテイロン・リード・エンド・コンパニート於テ之ガ總額ヲ引受ケタリ本社債ハ凡テ會社及受託會社タル株式會社日本興業銀行（ゼ・インタストリアル・バンク・オブ・シヤパン・リミテツド）間ノ一九二四年（大正十三年）八月一日附信託證書ニ基キ同證書中記載セル會社財產ニシテ日本帝國法律ニ準據シ一九二四年（大正十三年）七月二十五日附ヲ以テ日本名古屋區裁判所枇杷島出張所ニ於テ工場財團所有權保存登記番號第十六號ヲ以テ適法ニ登記サレタル工場財團上ニ設定サレタル抵當權ニ依リ平等ニ擔保セララルモノナリ抵當物件ノ種類、品目、擔保ノ種類及順位、本社債、發行ノ條件並ニ擔保ノ方法及會社、受託會社ノ權利義務並ニ社債權者ノ權利ニ關スル事項ハ信託證書中ニ之ヲ規定セリ信託證書ニ別段ノ定メアル場合ノ外本債券及利札ニ基ク權利ノ行使ハ一切受託會社之ヲ行ウモノニシテ其行使ハ信託證書ニ規定スル處ニ從イ之ヲ爲スベキモノトス。

會社ハ其欲スル處ニ依リ一九三四年（大正二十三年）二月一日以後滿期目前利息支拂目ニ於テ信託證書所定ノ公告方法ニ依リ少クモ三十日前ノ豫告ヲ以テ元金額並ニ經過利子ヲ加算シタル價額ヲ以テ社債ノ全部又ハ一部ヲ償還スルコトヲ得又滿期目前何時ニテモ利息支拂目ニ於テ信託證書所定ノ減債

基金ノ運用ニ依ル一部ノ償還ヲ爲スコトヲ得信託證書ノ規定ニ從テ本社債償還ノ決定アリタルトキハ
會社ニ於テ其ノ償還ニ付遲滞ナキ限リ償還公告ニ指定セル日以後ノ利息ハ之ヲ支拂ワザルモノトス。

會社ガ本社債ノ償還ヲ遲滞シタルトキハ信託證書ノ規定ニ基キ會社ハ社債元金ニ付期限ノ利益ヲ失
フモノトス。

本債券及利札ハ引渡ニ依リ讓渡セラルベキモノニシテ會社ニ於テ其債券又ハ利札ノ所持人ニ對シ支
拂ヲ爲シタルトキハ其債券ノ元金又ハ利札ノ表示スル利息ニ付其責ヲ免ルルモノトス。

債券ハ受託會社ノ證明(右證明ハ債券ニ裏書ヲ爲シ受託會社ノ總裁ノ署名ノ真写ヲ附シ理事ノ一名
之ニ署名ス)ナキトキ又ハ立會署名者タル「セントラル・ユニオン・トラスト・コンパニー・オブ・
ニューヨーク」ノ立會署名ナキトキハ凡テ無効トス。

右證據ノ爲メ一九二四年(大正十三年)八月一日大同電力株式會社(グレート・コンソリデーテ
ッド・エレクトロリツク・パワー・リミテッド)ハ其名ニ於テ社長若クハ副社長ノ一名本債券ニ署名シ
且社印ヲ押捺シ其秘書役若クハ副秘書役ノ一名之ヲ證明シ債券ニ添付セル利札ニハ副社長一名ノ署名
ノ真写ヲ附ス。

大同電力株式會社(グレート・コンソリデーテッド・エレクトロリツク・パワー・コンパニ
ー・リミテッド) 社長

右證明ニ

秘書役

(利札ノ書式)

第 號

金

弗(金磅志片)

大同電力株式會社(グレート・コンソリデーテッド・エレクトロリツク・パワー・コンパニー・リ
ミテッド)ハ本債券ニ付期限前ノ償還ノ決定及其支拂完了若クハ支拂ノ提供アラザル限リ一番抵當七
歩利減債基金附金貨社債工第 號ニ特定セル右社債半期利息トシテ大正 年 月 日所
持人ニ對シ本利札引換ニ亞米利加合衆國紐育州紐育市マンハツタン區所在デイロン・リード・コンパ
ニー本店若クハ其承繼人ノ本店ニ於テ合衆國金貨 弗也或ハ所持人ノ撰擇ニ從テ英國倫敦市所
在ジェー・ヘンリー・シユレーダー・エンド・コンパニー本店若クハ其ノ承繼人本店ニ於テ大不列顛
王國金貨 磅 志 片也ヲ支拂ウ但戰時平時ヲ問ワズ且所持人ガ日本ニ居住セザル限リ現ニ課セラル
ル税金又ハ日本政府行政團體若クハ稅務當局ニ依リ現在若クハ將來ノ法規ニ基キ課セラルルコトアル
ベキ税金ニヨリ控除セラルルコトナシ

(受託會社證明ノ書式)

本債券ハ大正十三年八月一日附信託證書ニ基キ發行サレ右證書ニ基キ設定サレタル抵當權ニ依リ擔保セラレルニ番抵當七步利減債基金附金貨社債上ノ一號ノ一ナルコトヲ證明ス。

受託會社ト株式會社日本興業銀行(ゼ・インダストリアル・バンク・オブ・ジャパン・リミテツト)トシテ

主理會社トシテ(下)トシテ

總 裁

(理事立會署名ノ書式)

右立會署名ス

立會署名者 セントラル・ユニオン・トラスト・コンパニー・オブ・ニューヨーク

役 員

上記ノ如ク受託會社ノ證明立會署名者ノ署名ヲ經テ本證書ノ規定ニ從テ發行セラレタル債券ハ合法有効ニ會社ヲ拘束シ本證書ニ基キ設定サレタル抵當權ハ、本債券ノ元利金ノ支拂ヲ擔保スル一番抵當タルノ効力ヲ生ジ且本證書及債券ノ作成交付ハ凡テノ點ニ於テ適法ニ成立スルモノトス。

仍而本契約並ニ社債權者ノ社債ノ引受者クハ本書作成ト同時又ハ夫レ以前ニ受託會社カ會社ニ對シ支拂イタル日本帝國ノ通貨金貳拾圓也及其他ノ對價ノ受授ヲ確認シ社債金壹千五百萬弗也ノ元利金支拂及以下所定ノ約定條件、誠實ナル履行ヲ保證スル爲メ會社ハ本證書ヲ作成交附シ本書ニ依リ受託會

社其信託ニ關スル承繼人又ハ讓受人ニ對シ日本帝國法律ニ準據シ大正十三年七月二十五日附テ以テ日本名古屋區裁判所枇杷島出張所ニ於テ工場財團所有權保存登記第十六號トシテ適法ニ登記セラレタル工場財團ヲ組成スル財産(以下工場財團ト稱ス)上ニ抵當權ヲ設定スルモノトス。

工場財團ヲ組成スル土地、工場、機械、器具、其他一切ノ物件權利及利息ヲ受託會社其承繼人及讓受人ノ爲メ保存スヘク受託會社其承繼人及讓受人ハ以下所定ノ條件ニ從テ一切ノ社債權者及利札所持人ノ共通ノ利益及擔保ノ爲メ債券ヲ發行賣買若クハ取引等ノ前後ニ依リ優劣ヲ附スルコトナシ債券記載ノ條件及以下所定ノ用方目的及條件ニ從テ信託的ニ之ヲ保存スベキモノナリ。

日本名古屋區裁判所枇杷島出張所ノ證明ニ係リ工場財團ヲ組成スル財産ノ品目ヲ包含スル工場財團目錄簿本ヲ本證書ノ各原本ニ添附シ證書ノ一部トナス。

右財産ハ工場財團所有權保存登記申請ノ日タル大正十三年六月九日以前ニ於テ完成シ會社ノ所有ニ係ル左記發電所變電所、開閉所送電線及電話線ヲ含ムモノニシテ大略次ノ如シ。

(イ) 本會第一(桃山)水力發電所

會社ノ本會第一(桃山)水力發電所ト稱スルハ、日本長野縣西筑摩郡上松町ニ所在シ、本工場ノ一部ヲ構成スル宅地、原野、田畑、森林、溜池、並ニ其他土地ノ一切。本工場ノ敷地内ニ定着スル發電所建物、修繕工場、事務所、社宅、従業員詰所、柵壁工作物、並ニ其他造營物ノ一切。堰堤、

取水口、門扉、水路、水壓鐵管、鐵管路、ヴァルブ、放水路、餘水路、排水門、隱道、水槽、鐵構、並ニ之ニ附屬スル他ノ工作物一切。水車、調速機、發電機、勵磁機、變壓器、電動機、蓄電池、配電盤、開閉器、遮斷器、避雷器、起重器、計器、調整器、並ニ其他本工場ニ在ル各種ノ設備一切。及本工場ニ包含セラルル其他ノ財産並ニ權利ノ一切ヲ包含ス。

(b) 本會第四(讀書)水力發電所

會社ノ本會第四(讀書)水力發電所ト稱スルハ、日本長野縣西筑摩郡讀書村、大桑村、吾妻村ニ所在シ、本工場ノ一部ヲ構成スル宅地、原野、田畑、森林、溜池、並ニ其他土地ノ一切。本工場ノ敷地内ニアル、發電所建物、修繕工場、事務所、社宅、従業員詰所、柵壁工作物、並ニ其他ノ造營物ノ一切。堰堤、取水口、門扉、水路、水壓鐵管、鐵管路、ヴァルブ、放水路、餘水路、水路橋、排水門、隧道、水槽鐵塔、鐵構、並ニ之ニ附屬スル他ノ工作物一切。水車、調速機、發電機、勵磁機、變壓器、電動機、蓄電池、配電盤、開閉器、遮斷機、避雷器、起重機、計器、調整器、並ニ其他本工場ニアル各種ノ設備一切、及本工場ニ包含セラルル其他ノ財産並ニ權利ノ一切ヲ包含ス。

(c) 本會第六(大井)水力發電所

會社ノ本會第六(大井)水力發電所ト稱スルハ、日本岐阜縣惠那郡川村、坂本村、大井町、中津町、苗木町ニ所在シ、本工場ノ一部ヲ構成スル宅地、原野、田畑、森林、溜池、貯水池用地、並ニ

其他土地ノ一切。本工場ノ敷地内ニ定着スル發電所建物、修繕工場、事務所、社宅、従業員詰所、並ニ其他造營物ノ一切。取水口、門扉、水路、水壓鐵管、鐵管路、ヴァルブ、放水路、餘水路、排水門、隧道、水槽、鐵塔、鐵構、並ニ之ニ附屬スル他ノ工作物一切。水車、調速機、發電機、勵磁機、變壓器、電動機、蓄電池、配電盤、開閉器、遮斷器、硝子、母線、避雷器、起重機、計器、調整器、並ニ其他本工場ニアル各種ノ設備一切。及本工場ニ包含セラルル其他ノ財産並ニ權利ノ一切ヲ包含ス。

(二) 大阪第四(毛馬)豫備火力發電所

會社ノ大阪第四(毛馬)豫備火力發電所ト稱スルハ、日本大阪府東成郡城北村ニ所在シ本工場ノ一部ヲ構成スル宅地、原野、田畑、其他ノ土地一切。本工場ノ敷地内ニ定着スル發電所建物、修繕工場、事務所、社宅、従業員詰所、柵壁工作物、並ニ其他ノ造營物一切。發電機、蒸汽タービン、凝汽機、唧筒、ヴァルブ、電動機、汽鐘、過熱器、ストーカー、煙道、煙突、起重機、コンベアー、諸管類、勵磁機、變壓器、電動機、配電盤、開閉器、遮斷器、避雷器、計器、並ニ其他本工場ニアル各種ノ設備一切。及本工場ニ包含セラルル其他ノ財産並ニ權利ノ一切ヲ包含ス。

(ホ) 大阪變電所

會社ノ大阪變電所ト稱スルハ、日本大阪府北河内郡門真村ニ所在シ、本工場ノ一部ヲ構成スル宅

地、原野、田畑、並ニ其他ノ土地一切。本工場ノ敷地内ニ定着スル變電所建物、修繕工場、事務所、社宅、従業員詰所、並ニ其他造營物ノ一切。及鉄塔、鉄構、並ニ之ニ附屬スル他ノ工作物一切。發電機、勵磁機、變壓器、電動機、蓄電池、配電盤、開閉器、遮斷器、レアクトル、進相機、避電機、起重機、計器、唧筒、並ニ其他本工場ニアル各種ノ設備一切。及本工場ニ包含セラルル其他ノ財産並ニ權利ノ一切ヲ包含ス。

(イ) 橋波變電所

會社ノ橋波變電所ト稱スルハ、日本大阪府北河内郡三郷村ニ所在シ、本工場ノ一部ヲ構成スル宅地、原野、田畑、並ニ其他ノ土地一切。本工場ニ定着スル變電所建物、事務所、社宅、従業員詰所、並ニ其他ノ造營物一切。及鉄塔、鉄構、並ニ之ニ附屬スル他ノ工作物一切。發電機、變壓器、電動機、蓄電池、配電盤、開閉器、遮斷器、避雷器、計器、唧筒、並ニ其他本工場ニアル各種ノ設備一切。及本工場ニ包含セラルル其他ノ財産並權利ノ一切ヲ包含ス。

(ロ) 須原變電所

會社ノ須原變電所ト稱スルハ、日本長野縣西筑摩郡大桑村ニ所在シ、本工場ノ一部ヲ構成スル宅地、原野、田畑並ニ其他ノ土地一切。本工場敷地内ニ定着スル組立所、及其他ノ構造物一切。及鉄塔、鉄構、並ニ之ニ附屬スル其他ノ工作物一切。發電機、變壓器、電動機、蓄電池、配電盤、開閉器、遮斷器、避雷器、起重機、計器並ニ其他本工場ニアル各種ノ設備一切及本工場ニ包含セラルル其他ノ財産並ニ權利ノ一切ヲ包含ス。

(ハ) 犬山開閉所

會社ノ犬山開閉所ト稱スルハ、日本愛知縣丹羽郡羽黒村ニ所在シ、本工場ノ一部ヲ構成スル宅地、原野、田畑、並ニ其他ノ土地一切。本工場ノ敷地内ニ定着スル開閉所建物、事務所、社宅、従業員詰所、並ニ其他ノ造營物一切。及鉄塔鐵構並ニ之ニ附屬スル他ノ工作物一切。發電機、電動機、蓄電池、配電盤、開閉器、遮斷器、計器並ニ其他本工場ニアル各種ノ設備一切。及本工場ニ包含セラルル其他ノ財産並ニ權利ノ一切ヲ包含ス。

(ニ) 龜山開閉所

會社ノ龜山開閉所ト稱スルハ、日本三重縣鈴鹿郡龜山町ニ所在シ、本工場ノ一部ヲ構成スル宅地、原野、田畑、並ニ其他ノ土地一切。本工場ニ定着スル開閉所建物、事務所、社宅、従業員詰所、並ニ其他ノ造營物一切。及鉄塔、鐵構、並ニ之ニ附屬スル他ノ工作物一切。發電機、電動機、蓄電池、配電盤、開閉器、遮斷器、計器並ニ本工場ニアル各種ノ設備一切。及本工場ニ包含セラルル其他ノ財産並ニ權利ノ一切ヲ包含ス。

(ク) 須原大阪間送電線路

(ウ) 會社ノ須原大阪間送電線路（復線十五萬四千「ヴォルト」三相式）ト稱スルハ、日本長野縣西筑摩郡大桑村ニ所在スル、會社ノ須原發電所ニ始マリ、約九・五哩ノ間ヲ南東ニ走り、長野縣西筑摩郡讀書村所在會社ノ讀書發電所ニ到ル更ニ此處ヨリ約二七・三八哩ノ間南東ニ走り、岐阜縣惠那郡大井町所在大井發電所ニ到ル、更ニ是ヨリ二・三・五哩ノ間南東ニ走り愛知縣丹羽郡羽墨村所在會社ノ犬山開閉所ニ到ル、更ニ此處ヨリ約一一・一二哩ノ間南方ニ走り愛知縣西春日井郡春日村所在會社ノ清州開閉所ニ到ル、更ニ此處ヨリ約八五・九哩ノ間南方ニ走り、日本大阪府北河内郡門真村所在會社ノ大阪變電所ニ到リテ終ル、此途中三重縣鈴鹿郡龜山町所在會社ノ龜山開閉所ヲ通過接続ス、全亘長約一四七・四哩ニシテ本送電線路ノ一部ヲ構成スル鐵塔、鐵柱、碍子、碍子ピン、基礎工事、並ニ各種ノ構造物一切。電線、電纜、導線、並ニ本送電線路ニ使用セラルル各種ノ設備一切。及本送電線路ニ包含セラルル其他ノ財産並ニ權利ノ一切ヲ包含ス。

(ル) 須原鹽尻間送電線路

會社ノ須原鹽尻間ノ送電線路（復線七萬七千「ヴォルト」三相式）ト稱スルハ、日本長野縣西筑摩郡大桑村所在會社ノ須原發電所ニ始リ、約二・六五哩ノ間北西ニ走り、日本長野縣西筑摩郡上松町所在會社ノ桃山發電所ニ到ル、更ニ此處ヨリ約三一・六哩ノ間ヲ北西ニ走り、日本長野縣東筑摩郡廣丘村所在會社ノ鹽尻變電所内鹽尻開閉所ニ到リテ終ル。全亘長三四・二五哩ニシテ本送電線路ノ

一部ヲ構成スル鐵塔、鐵柱、碍子、基礎工事、並ニ各種ノ構造物一切。電線、電纜、導線、並ニ本送電路ニ使用セラルル各種ノ設備一切。及本送電線路ニ包含セラルル其他ノ財産並ニ權利ノ一切ヲ包含ス。

(ヲ) 橋波毛馬間送電線路

會社ノ橋波毛馬間送電線路（復線二萬二千「ヴォルト」三相式中線）ト稱スルハ、日本大阪府北河内郡三郷村所在會社ノ橋波變電所ニ始リ、約三・九五哩ノ間ヲ南方ニ走り、日本大阪府東成郡城北村所在會社ノ毛馬發電所ニ到ル本送電線路ノ一部ヲ構成スル電纜ヲ埋設及結合スル總テノ材料。各種ノ基礎工事、並ニ構造物一切。及電纜、導線、並ニ本電線路ニ使用セラルル各種ノ設備一切。及本送電線路ニ包含セラルル其他ノ財産並ニ權利ノ一切ヲ包含ス。

(ク) 大阪橋波間電線路

會社ノ大阪橋波間送電線路（復線五萬五千「ヴォルト」三相式）ト稱スルハ、日本大阪府北河内郡門真村所在會社ノ大阪變電所ヨリ始リ、約一・二六八哩ノ間ヲ南方ニ走りテ、日本大阪府北河内郡三郷村所在會社ノ橋波變電所ニ至ル、本送電線路ノ一部ヲ構成スル鐵塔、鐵柱、碍子、各種ノ基礎工事、並ニ構造物一切。及電線、並ニ本送電線路ニ使用セラルル各種ノ設備一切。及本送電線路ニ包含セラルル其他ノ財産並ニ權利ノ一切ヲ包含ス。

(カ) 須原大阪間電話線路

會社ノ須原大阪間電話線路ト稱スルハ、日本長野縣西筑摩郡大桑村所在會社ノ須原發電所ニ始リ、約一九・五哩ノ間ヲ南東ニ走リ長野縣西筑摩郡讀書村所在會社ノ讀書發電所ニ到ル、更ニ是ヨリ約二七・三八哩ノ間ヲ南東ニ走リ岐阜縣惠那郡大井町所在會社ノ大井發電所ニ到ル是ヨリ更ニ約一三・五〇哩ヲ南東ニ走リ、愛知縣丹羽郡黒村所在會社ノ犬山開閉所ニ達ス、是ヨリ更ニ約一一・一二哩ノ間ヲ南方ニ走リテ、愛知縣西春日井郡春日村所在會社ノ清州開閉所ニ到ル。

尙是ヨリ九四・二〇哩ノ間ヲ南方ニ走リ日本大阪府北河内郡門真村所在會社ノ大阪變電所ニ到リテ終ル、途中三重縣鈴鹿郡龜山町所在會社ノ龜山開閉所ヲ通過接續ス、全長約一五五・七哩ニシテ本電話線路ノ一部ヲ構成スル鐵塔、電柱、碍子、各種ノ基礎工事並ニ構造物ノ一切。電線、電纜、保安裝置、電話裝置並ニ本電話線路ニ使用セラルル各種ノ設備一切。及本電話線路ニ包含セラルル其他ノ財產並ニ權利ノ一切ヲ包含ス。

(コ) 須原鹽尻間電話線路

會社ノ須原鹽尻間電話線路ト稱スルハ、日本長野縣西筑摩郡大桑村所在會社ノ須原發電所ニ始リ、約二・五哩北東ニ走リテ、長野縣西筑摩郡上松町所在會社ノ桃山發電所ニ至ル、更ニ是ヨリ北西ノ方向ニ進ムコト約三五・二哩ニシテ長野縣東筑摩郡廣丘村所在會社ノ鹽尻變電所内鹽尻開閉所ニ終

ル、全長約三七・七哩ニシテ、本電話線路ノ一部ヲ構成スル鐵塔、電柱、碍子、各種ノ基礎工事並ニ構造物ノ一切。電線、電纜、保安裝置、電話裝置、並ニ本電話線路ニ使用セラルル各種ノ設備一切。及本電話線路ニ包含セラルル其他ノ財產並ニ權利ノ一切ヲ包含ス。

(ク) 橋波毛馬間電話線路

會社ノ橋波毛馬間電話線路ト稱スルハ、日本大阪府北河内郡三郷村所在會社ノ橋波變電所ニ端ヲ發シ、是ヨリ約三・七五哩ノ間ヲ南方ニ走リテ日本大阪府東成郡城北村所在會社ノ毛馬火力發電所ニ至ル本電話線路ノ一部ヲ構成スル鐵塔、電柱、各種ノ基礎工事並ニ構造物ノ一切。及電線、電纜、電話裝置、保安裝置、並ニ本電話線路ニ使用セラルル各種ノ設備一切。及本電話線路ニ包含セラルル其他ノ財產並ニ權利ノ一切ヲ包含ス。

(キ) 大阪橋波間電話線路

會社ノ大阪橋波間電話線路ト稱スルハ、日本大阪府北河内郡門真村所在會社ノ大阪變電所ニ始リ、約一・三五哩ノ間ヲ南方ニ走リ日本大阪府北河内郡三郷村所在會社ノ橋波變電所ニ至ル、本電話線路ノ一部ヲ構成スル鐵塔、電柱、各種ノ基礎工事並ニ構造物ノ一切。及電線、電纜、電話裝置、保安裝置、並ニ本電話線路ニ使用セラルル各種ノ設備一切。及本電話線路ニ包含セラルル其他ノ財產並ニ權利ノ一切ヲ包含ス。

後章第六章ニ規定セルカ如ク、會社ハ本契約ニ基キ設定セラレタル抵當權ニ從ウヘシ。

- (一) 工場財團中ニ含マルル架空並ニ地中送電電話線路ノ權利ニ關スル借地權契約ニ依ル會社ノ權利
- (二) 完成ノ上ハ本抵當權ニ加入シ得サリシ程度ニ於テ、本會第六(大井)水力發電所
- (三) 清州開閉所
- (四) 須原開閉所
- (五) 工場財團登記受附日以後、會社ニ於テ更ニ取得セル財產及權利並ニ如何ナル部分ニ於ケルヲ問フズ工場財團ノ置換、再築、擴張、改良、増設、附加。

第一章 債券ニ關スル總則

第一條 債券利札及受託會社ノ證明及立會署名者ノ立會署名ノ方式ノ要項ハ上記ノ文言及要領ヲ以テ爲ルヘキモノトス。

債券ハ會社ノ一番抵當七歩利減債基金附金貨社債工一號ト稱シ大正十三年八月一日附トシ拂渡期日ヲ大正三十三年八月一日トス。

大正十三年八月一日ヨリ一ケ年七分ノ割合ニヨリ利息ヲ附シタ元金償還ニ至ル迄年二回即チ毎年二月一日及八月一日ニ支拂ウモノトス。

元利金ノ支拂ハ亞米利加合衆國紐育州紐育市マンハツタン區所在テイロン・リード・エンド・コンパニー、本店ニ於テ大正十三年八月一日現在ノ品位量目又ハ之ト同等ノ亞米利加合衆國金貨弗ヲ以テ爲シ或ハ所持人ノ撰擇ニ從イ英國倫敦市所在ジェー・ヘンリー・シユレーダー・エンド・コンパニー本店ニ於テ金貨一磅ニ對シ四・八六六五弗ノ換算率ニヨリ大不列顛王國金貨ヲ以テ爲スモノトス

本債券ハ無記名式利札附ニシテ一千弗券及五百弗券ノ二種トシ記名式ヲ用イサルモノトス
一千弗券ハエム一ヨリ順次上位ノ番號ヲ附シ五百弗券ハデイ一ヨリ順次上位ノ番號ヲ附ス、本證書ニ基キ發行スル社債總額ハ金壹千五百萬弗也トス債券ニハ會社ヲ代表シテ社長又ハ副社長ノ一名之ニ署名シ社印ヲ押刻シ秘書役又ハ副秘書役ノ一名之ヲ證明ス

第二條 會社ハ本債券ノ交付準備完了スル迄之カ代用トシテ本債券ト同一ノ規定及條件ニ從イ五百弗又ハ其倍數ノ券面額ヲ有スル印刷又ハタイプライターニテ記載シタルモノニシテ前記ノ文言ヲ附シタル一通又ハ夫レ以上ノ數ノ假債券ヲ作成シ受託會社ハ會社ノ要求ニ應シ之ニ證明ヲ附シテ立會署名者ニ交附シ立會署名者之ニ署名ヲ爲シ交附スルモノトス。但假債券ニハ利札ヲ附セス且其文書ハ必要ニ應シ適當ノ加除ヲ爲スコトアリ會社ハ紐育株式取引所ノ書式ニ合致スル本債券及利札ヲ可及的速カニ鋼鐵印版ヲ以テ印刷作成スヘシ

會社ハ右本債券出來シタルトキハ之ヲ受託會社ニ交附シ受託會社ハ之ニ證明ヲ附シタル上立會署名者ニ交附ス立會署名者ニ於テ右本債券ノ交附ヲ受ケ且會社ニ代リ交換ノ爲メ假債券ノ提出ヲ受ケタルトキハ本債券ニ立會署名ヲ爲シ右提出アリタル假債券ト同一ノ元金額ニ相當スルモノヲ交附スルモノトス。

斯ク交換サルル迄ハ假債券ハ凡テノ點ニ於テ本書ニ基キ發行證明及立會署名サルヘキ本債券ニ於ケルト同様ノ本證書ニ基ク權利利益ヲ享有スルモノニシテ之ニ對スル利息ハ支拂期到來シタル時右假債券ノ呈示ニ應シ利息支拂濟ノ記號ヲ附シテ支拂フル可キモノナリ、引換ノ爲メ提出アリタル假債券ハ立會署名者ニ於テ抹消ノ上之ヲ受託會社ニ交附シ受託會社ハ會社ノ書面ニ依ル要求ニ應シ之ヲ會社ニ交附スルモノトス。

第三條 本債券添附ノ利札ニハ會社ノ副社長ノ署名ヲ附スルモノトシ債券カ證明サレ立會署名サレ又ハ發行サレル當時ニ到リテ會社ノ其副社長カ最早其職ニ在ラサル場合ト雖モ其者ノ署名ノ眞寫ヲ右目的ノ爲メ採用シ使用スルコトヲ得。

第四條 會社ノ役員ニシテ債券ニ署名シ捺印シタルモノカ其債券カ現實證明サレ立會署名サレ又ハ發行サレル以前ニ其職ヲ退キタル場合ト雖モ斯カル債券ハ右署名又ハ捺印シタル役員カ恰モ其職ニ在ルト同様ニ取扱ワル可キモノニシテ該債券ノ發行證明、立會署名ニ何等影響ヲ及ホサス債券作成ノ

時會社ノ適法ノ役員タル者ハ假令其者カ債券日附ノ當時右役員ニアラサリシ場合ト雖モ會社ノ爲メ債券ニ署名シ捺印スルコトヲ得。

第五條 債券面ニナス受託會社ノ證明ハ受託會社ノ爲メ其理事ノ一人之ニ署名シ且受託會社ノ其當時ノ總裁ノ署名又ハ氏名ノ眞寫ヲ附スルモノトシ債券カ證明サレ立會署名サレ又ハ發行サルル當時ニ到リテ其總裁カ最早其職ニ在ラサル場合ト雖モ其者ノ署名又ハ氏名ノ眞寫ヲ右目的ノ爲メ採用シ使用スルコトヲ得受託會社ノ理事ニシテ受託會社ノ爲メ債券ニ證明ヲ爲シタル者ガ其債券ノ現實立會署名サレ又ハ發行サルル以前ニ其職ヲ退キタル場合ト雖モ斯カル債券ハ右證明ヲ爲シタル者ガ恰モ其職ニ在ルト同様ニ取扱ワル可キモノニシテ其發行及立會署名何等影響ヲ及ホサス。

債券證明ノ當時受託會社ノ理事タル者ハ假令其者カ債券日附ノ當時理事ニアラサリシ場合ト雖モ受託會社ノ爲メ債券ノ證明ヲ爲スコトヲ得。

第六條 債券ニシテ本書中前記書式ニ依ル受託會社及立會署名者各自ノ證明及立會署名ヲ附シタルモノニ限リ本證書ニ基ク權利利益ニ均霑シ又ハ擔保ニヨリ確保セラレ得ルモノトス而シテ斯カル受託會社ノ證明及立會署名者ノ立會署名ハ債券ノ効力發生ノ絕對條件トス斯ル證明及立會署名ヲ附シタル債券ハ其發行ニ當リ本書規定ニ基キ適法ニ發行サレタルモノニシテ其債券ノ所持人ハ本書ニ依リ設定サレタル信託的抵當權ニ對スル權利及利益ヲ享有シ得ルモノナリ。

第七條 會社受託會社立會署名者財務擔當者及ジェー・ヘンリ・シユレーダー・エンド・コンパニーハ債券又ハ利札カ滿期前タルト滿期後タルトヲ問ワス又支拂ヲ受クル目的ノ爲メタルト其他如何ナル目的ノ爲メタルトヲ問ワス其債券又ハ利札ノ所持人ヲ以テ其所有者ト看做シ之ニ異ル通知ニ拘束サルルコトナキモノトス。

本債券ニ對スル利息ハ債券ニ添付シタル各利札ノ滿期到來シタルトキ之ト引換ニ於テノミ支拂ワルヘキモノナリ。

債券又ハ利札ニシテ償還又ハ支拂ヲ完了シタルモノハ抹消シ之ヲ立會署名者ニ交附シ立會署名者ハ會社ノ費用ヲ以テ受託會社ニ對シ抹消債券又ハ利札ノ記號番號及券面額ヲ通告シ之ヲ受託會社ニ交付スルモノトス。

受託會社ハ會社ノ書面ニ依ル要求ニ應シ之ヲ會社ニ交付スルモノトス。

第八條 利札附本債券又ハ假債券毀損若ハ滅失シタル場合ニ於テハ會社ハ其認定ニヨリ毀損セル債券利札又ハ假債券ニ對シテハ之ト引換抹消ノ上、若シ又滅失セル債券利札又ハ假債券ニ對シテハ其代用トシテ同一文言、日附及種類ニシテ同一記號、番號ヲ附シタル新券ヲ發行スルコトヲ得、此場合ニ於テ受託會社之ニ證明ヲ附シ立會署名者之ニ立會署名シテ交付スルモノトス。

斯ル再發行ヲ申請スル者ハ債券、利札、又ハ假債券ノ毀損滅失ニ付會社、受託會社及立會署名者

ノ認定ニ從イ各自ノ満足スル保證ヲ立ツヘキモノトシ且前記三者又ハ其何レカガ豫メ定メタル其他ノ相當ノ規定ニ從イ又相當ノ費用ヲ支拂ウヘキモノトス。

第九條 本證書、債券、又ハ利札ニ明示又ハ默示ニヨリ包含サレタル事項ハ本契約ノ當事者及債券、利札ノ所持人以外ノ者ニ對シテハ本書記載ノ規約又ハ條件ニ基ク法律上ノ權利、救濟方法又ハ請求權ヲ附與スルモノニ非ズル規約、條件ニヨル權利利益ハ一切本契約ノ當事者及債券、利札ノ所持人ノ爲メニノミ存在スルモノナリ。

第二章 社債ノ發行

本書契約ガ締結セラレタル後ハ會社ハ總額壹千五百萬弗ニ付債券ヲ作成シ受託會社ニ交付スルコトヲ得。

受託會社ハ本信託證書ガ登記所ニ提出セラレレニ依リ工場財團ニ對スル一番抵當ガ日本法律ニ基キ債券及利札所持人ノ爲メニ受託會社ニ對シ設定登記セラレタル時ハ受託會社ハ此等ノ債券ニ署名ヲ爲シ之ヲ立會署名者ニ交付ス可シ。

受託會社ノ證明アル債券ヲ立會署名者ガ受取リタル時ハ斯カル證明及抵當權ノ設定登記ニ關シ取調ベテ爲スコトナク立會署名者ハ之レニ立會署名ヲ爲シテ會社ノ社長福澤桃介又ハ其承繼人又ハ一名ノ

副社長又ハ其承繼人或ハ會社ノ秘書役又ハ副秘書役ノ二名ニヨリ署名サレタル會社ノ書面ニヨル要求ニ從テ發行スルモノナリ。

第三章 社債金ノ使用

第二條 會社ハ本社債額面ノ壹千五百萬弗ノ手取金ヲ次ノ方法ニ使用スヘキコトヲ約ス
(イ) 手取金ヲ受取タル時ハ其受取當時ノ諸銀行及其他ノ借入金ヲ全部完済ス可シ但會社ニテ直チニ支拂ワザルヲ可ナリト思惟スル場合ハ支拂勘定トシテ支拂未済ト爲シ置クコトヲ得而シテ未済雜勘定ハ平均百萬圓以下タルヘシ。

會社ハ手取金受領後三十日內ニ手取金受取當時ノ銀行其他ノ借入金及此等ガ完済セラレタル人(但上記ノ例外アル場合ハ例外ノ勘定ヲモ記入シテ)コトヲ相當詳細ニ記載シ社長又ハ副社長ニヨリ署名サレタル證明書ヲ受託會社ニ届出ヅヘシ又受託會社ガ相當程度ニ於テ要求スル限り上記ノ支拂ヲ證スル爲メ其他ノ證據ヲモ供給ス可シ。

(ロ) 手取金ヲ會社ガ受取タル時ハ大正十四年六月一日又ハ其以前ニ償還期到來シ且手取金受取當時ニ未償還ナリシ社債ノ元利金支拂ニ充分ナル金額ヲ供託金トシテ受託會社ニ供託シ又ハ受託會社ノ爲メ供託スルコトニヨリ右手取金ヲ使用ス可シ。

會社ハ右供託ヲ爲スト同時ニ受託會社ニ對シ償還セラル可キ各社債ノ金額其各償還期又ハ其以前ニ於テ支拂ウ可キ利息ノ計算書ヲ社長又ハ副社長ニ署名シテ證明ノ上之レヲ受託會社ニ交付ス可シ。

第三條 會社ガ手取金中ヨリ舊社債償還ノ爲メ第三章第一條ノ規定ニヨリ受託會社ニ供託シタル金額ニ對シ償還ヲ受クル爲メ舊債券ノ提出アリタル時ハ受託會社ハ右供託金ヨリ償還額ヲ支拂ウ可キモノトス而シテ受託會社ニ提出サレタル舊債券ハ受託會社ニ於テ抹消ノ上會社ノ書面ニヨリ請求ニ應ジ之レヲ會社ニ交付ス可シ。

第四章 社債ノ償還

第一條 會社ハ自己ノ撰擇ニ從テ大正二十三年二月一日以後ノ利息支拂日ニ於テ何時ニテモ其當時ノ未償還社債ノ全部又ハ一部ヲ第四章第二條ノ規定ニヨリ償還日以前三十日ノ豫告ヲ以テ額面及未拂利子ニテ償還スルコトヲ得可シ。

前項ノ額面金額及未拂利子ヲ以下ノ條項ニ於テ社債ノ償還價格ト稱スルコトアルベシ。
第二條 會社ガ滿期前ニ償還ヲナス權利ヲ行使セントスル時ハスル償還日ヨリ少クトモ四十五日以前ニ於テ、大正十三年八月一日ニ於ケル品位量目ヲ有スル米國金貨弗ヲ以テ償還セラルベキ償還價格

ヲ財務擔當者ニ供託ス可シ。
前項ノ場合ニ於テ財務擔當者ハ償還日以前少クトモ一週一回引續キ四週間ニ亙リ償還ノ公告ヲ
(第一回目ノ公告ハ償還日以前少クトモ三十日前六十日以内ニ於テ之ヲ爲ス) 紐育市マンハツタン
區ニ於テ發刊シ一般ニ公布セラルル日刊新聞ニ之ヲ爲シ上記期間中少クトモ一回米國マサチユ―セ
ツツ州ボストン市ペンシルベニヤ州費府イリノイス州市俄古市加州桑港市英國倫敦市ニ於テ右四週
間中少クトモ一回之ガ公告ヲ爲スベシ。

會社ハ斯ル公告ヲ上記公告期間中少クトモ一回日本ノ官報及日本東京市ニ於テ發刊スル會社ノ公
告ノ方法ニ用イラルル新聞紙ニ又少クトモ一回大阪ニテ發刊サレ公布サルル新聞紙ニ其他法律ガ要
求スル新聞紙上ニ公告スベシ。

右公告ニハ會社ノ滿期前ノ償還權ノ行使、償還日、償還價格、及一部償還ノ場合ニハ償還セラル
ル債券ノ番號(但此番號ハ立會署名者ガ抽籤ニヨリ定ム)及其他償還セラルル可キ債券ニ對シテハ
償還日以後利息ヲ附セザルコト債券ハ米國紐育市マンハツタン區テイロン・リード・エンド・コン
パニーノ本店(詳細ニ町番地ヲ特ニ記載スルコト)或ハ債券所持人ノ撰擇ニ從イ英國倫敦市ノジエ
ー・ヘンリー・シユレーダー・エンド・コンパニーノ本店(詳細ニ町番地ヲ記載スルコト)ニ於テ
支拂ヲ受クル爲メ呈示スベキコトヲ記載ス可キモノトス。

公告ヲナシ償還スベキ債券ヲ指定シタル時ハ公告ニヨリ定メラレタル日ニ於テ償還價格ヲ以テ償
還セラルベキモノニシテ其債券ガ償還日迄又ハ其以後ニ滿期トナル一切ノ利札ト共ニ公告ノ趣旨ニ
從イテ提出サレタル時ニ償還價格ニヨリテ償還サルルモノナリ。

公告ニ依リ定メラレタル償還日以後ハ債券面利札面又ハ本書ニ之ニ反スル意味ノ記載アリトモ會
社ガ償還價格ノ支拂ニ付不履行アル場合ヲ除キ償還スベク指定セラレタル債券ノ利子ハ之ヲ附セズ
會社、及擔保タル工場財團ハ斯ル債券及其添附利札ニ對シテハ何等ノ責任ヲ負ウコトナシ。

右償還日後ハ財務擔當者ニ供託シタル金額ハ該社債ノ償還ニ充當セラレタルモノト見做ス。
財務擔當者ハ供託ヲ受ケタル金額中ヨリ隨時英國倫敦ノジエー・ヘンリー・シユレーダー・エン
ド・コンパニーノ店舗ニ於テ償還ノ爲メ呈示セラルベキ償還債券ニ充當スベキ英國貨幣ノ金額ヲ該
ジエー・ヘンリー・シユレーダー・エンド・コンパニーニ提供ス可シ、右金額ノ送金費用及英貨壹
磅ガ四弗八六五ノ換算率以上トナリタル場合ノ爲換算率差金ハ請求アリ次第財務擔當者ニ補償ス
可シ。

第三條 上記ノ如ク償還セラルベキ債券ガ特定スル迄ハ其爲メニ會社ニヨリテ供託セラレタル一切ノ
供託金ハ一切ノ償還社債ノ擔保トシテ保持セラル然レ共一度償還ス可キ債券特定サレタル後ハ斯ル
特定ノ債券ノ償還ノ爲メノ信託資金トシテ保有セラル可シ。

第四條 會社又ハ被供託者ハ償還ノ爲メノ供託金ヨリ生ズル利息ハ如何ナル債券所持人ニ對シテモ支拂ハ義務ナシ。

第五條 本章ノ規定ニ依リ償還セラル可キ一切ノ債券並ニ添附利札ハ即時抹消セラルベク且ツ償還濟債券ニ付テハ再發行セザルモノトス。

抹消債券及利札ハ之ヲ立會署名者ニ交付シ立會署名者ハ之ヲ受託會社ニ交付ス受託會社ハ會社ノ書面ニ依ル要求ニ應ジ右債券及利札ヲ會社ニ引渡スモノトス。

第五章 減債基金

第一條 會社ハ減債基金制度ヲ設立シ此方法ニヨリテ社債ノ償還ヲナス可シ但以下本章ノ規定ニ從ウモノトス。

第二條 會社ハ減債基金勘定トシテ特ニ定メラレタル日ニ於テ下記金額ノ支拂ヲ爲スベシ。

(イ) 大正十三年十二月十五日限り及其後毎年六月十五日及十二月十五日限り引續キ大正十八年六月十五日ニ至ルマデ毎回社債元本貳拾五萬弗ノ償還價格ニ該當スル金額、但此元利合計弗貨償還價格ハ貳拾五萬八千七百五拾弗也

(ロ) 大正十八年十二月十五日限り及其後毎年六月十五日及十二月十五日限り引續キ大正二十三年六月十五日ニ至ルマデ毎回社債元本參拾五萬弗ノ償還價格ニ該當スル金額、但此元利合計弗貨償還價格ハ參拾六萬貳千貳百五拾弗也

(ハ) 大正二十三年十二月十五日限り及其後毎年六月十五日及十二月十五日限り引續キ大正三十三年六月十五日ニ至ルマデ毎回社債元本四拾五萬弗ノ償還價格ニ該當スル金額、但此元利合計弗貨償還價格ハ四拾六萬五千七百五拾弗也

但會社ハ如何ナル場合ト雖モ未償還社債價格ノ總額ヲ超過スル金額ノ減債基金ヲ支拂ハセシメラルコトナシ。

總テノ減債基金ハ大正十三年八月一日現在ニ於ケル品位量目ヲ有スル北米合衆國ノ金貨弗ヲ以テ財務擔當者ニ對シ拂込ムモノトス、減債基金勘定トシテ拂込マレタル金額中ヨリ財務擔當者ハ減債基金ノ運用ニヨリ償還セラルベキ社債ニシテ英國ロンドン市ノジエー・ヘンリー・シユレーダー・エンド・コンパニーノ店舗ニ於テ償還ノ爲メ呈示セラル可キ一切ノ債券ノ償還價格ヲ英國貨幣ニヨリ支拂ツ可キ金員ヲ該ジエー・ヘンリー・シユレーダー・エンド・コンパニーニ分配ス可シ。

右金額ノ送金費用及英貨壹磅ガ四弗八六五ノ換算率以上トナリタル場合ノ爲替差金ハ請求アリ次第、會社ヨリ財務擔當者ニ補償スベシ。

第三條 大正三十三年二月一日後ノ未償還社債ノ償還ノ爲メノ減債基金ニ拂込マルベキ金額（此ノ金

額ハ大正三十三年八月一日ニ於ケル社債ノ支拂イニ充當スベシヲ除キテハ財務擔當者ハ減債基金勘定ニ順次拂込マレタル金額ヲ以下記載ノ方法ニヨリ社債償還價格ニテ社債ノ償還ニ充當ス可シ
即チ會社ガ減債基金ノ拂込ミヲ爲シタル日ヨリ五日以内ニ立會署名者ハ抽籤ニヨリテ次ノ利息支拂日ニ償還セラレベキ債券ヲ確定スベシ而シテ償還ニ當籤セル債券ノ如何ナルモノナルカヲ財務擔當者及會社ニ書面ヲ以テ通知スベシ。

茲ニ於テ財務擔當者ハ本書第四章ノ規定ニヨリ社債償還ニ付爲ス可キ償還公告ヲ爲スベシ右ノ公告ヲ爲シ償還確定セシ債券ハ該公告ニヨル償還期日ニ於テ償還價格ヲ以テ支拂ワルルモノトス、即チ該公告ノ趣旨ニ從イ債券ノ呈示アリタル時ハ右支拂日迄又ハ其ノ以後ノ利札全部ト共ニ減債基金ノ金額ヨリ償還價格ヲ以テ支拂ウモノトス、カク決定サレタル償還期日以後ハ債券面利札面又ハ本書ニ之ニ反スル意味ノ記載アリトモ會社ガ償還價格ノ支拂ヲ遲滯セザル限リ當籤セル債券ニ對スル利息ヲ附セズ而シテ會社又ハ擔保トナレル工場財團ハカカル當籤セル債券ノ元利ニ對シ責任ヲ負ウコトナシ而シテ減債基金ヨリ支拂ウ目的以外ニハカカル社債ハ未償還社債トシテ推定セラルルコトナシ。

會社ハ大正十九年二月一日前ハ各利子支拂期日ニ於テ社債元本貳拾五萬弗以上其後大正二十四年二月一日ニ到ル迄ハ各利子支拂日ニ社債元本參拾五萬弗以上ヲ減債基金ノ運用ニヨルモ償還スベキ

權利ナキモノトス。

第四條 上記ノ如ク償還セラレベキ債券ガ特定スル迄會社ニ依リテ減債基金勘定ニ拂込マレタル一切ノ金額ハ一切ノ未償還社債ノ擔保タル供託金トシテ保有セラルルモ一度償還債券ガ確定シタル後ハカカル特定ノ社債ノ償還ノタメフ供託金トシテ保有セラル可キモノナリ。

第五條 會社並ニ被供託者ハ減債基金勘定ニ拂込マレタル金額ヨリ生ズル利息ニ付テハ社債權者ニ對シ何等支拂責任ナキモノトス。

第六條 本章ノ各條項ニ從イテ償還サレタル債券ハ直チニ抹消シ、再度發行ス可カラズ抹消債券ハ立會署名者ニ交付シ立會署名者ハ之レヲ受託會社ニ交付スベシ。

受託會社ノ書面ニ依ル請求ニ應ジカカル債券ヲ會社ニ交付スルモノトス。

第六章 會社ノ特約

會社ハ受託會社及債券並ニ利札所持人ノ爲メ受託會社ト左記事項ヲ約諾スル。

第一條 會社ハ債券利札及本書中記載ノ期日場所及方法ニヨリ之等ノモノニ記載サレタル趣旨及意義ニ從イ適法正確ニ社債元利金ノ拂渡ヲ爲ス其戰時タルト平時タルトヲ問フズ債券又ハ利札所持人ガ日本政府ト親善關係ニアル國家ノ國籍ヲ有スルト否トヲ問フズ債券利札ノ所持人ノ國籍又ハ住所地

ニ關シ何等ノ宣明書ヲ徵シ若クハ調査ヲ爲スコトナク社債權者ガ日本ニ居住セザル限り本社債ニ關シ又ハ之ヲ擔保スル財産又ハ社債權者ノタメ設定セラレタル權利ニ對シ又ハ本社債ヨリ生ジ若クハ生ズベキ利益收入又ハ其他ノ支拂ニ對シ又ハ本社債券ヲ所有スルコトニヨリ或ハ本書ノ規定ヨリ生ズル利益權利ヲ享有スルコトニヨリ其他如何ナル場合ニ依ルトゾ問フズ社債權者ニ對シ日本帝國行政團體又ハ稅務當局ノ現在又ハ將來ノ法令ニ基キ現ニ課セラルルカ又ハ今後課セラルベキ税金ニ對スル控除ヲ爲スコトナシスル税金ハ會社ニ於テ支拂ウベキコトヲ約ス。

第二條 滿期後未拂利札ノ堆積ヲ避クルタメ會社ハ直接又ハ間接ニ利子支拂ノ時期ヲ延長シ又ハ延長ニ同意スルガ如キコトヲ爲サザルハ勿論直接ニモ間接ニモ利札ヲ買取り又ハ之ヲ利札ノ儘資金トシテ用イ或ハ其他ノ方法ニ依リ利子支拂ヲ延期スルガ如キ協定ノ當事者ト爲リ又ハ之ニ同意スルガ如キコトヲ爲サザルモノトス。

第三條 會社ハ債券ノ殘存スル間其元利金支拂ノ爲メ亞米利加合衆國紐育州紐育市マンハツタン區所在テイロン・リード・エンド・コンパニー本店內及英國倫敦市所在ジェー・ヘンリー・シユレーダト・エンド・コンパニー本店內事務所又ハ代理人ヲ設置ス且立會署名及毀損、滅失債券ノ取扱ノ爲メ前記マンハツタン區所在セントラル・ユニオン・トラスト・コンパニー・オブ・ニユーヨーク本店內ニ適當ノ施設ヲ爲ス

第四條 會社ハ大正十三年八月一日現在ノ品位及量目又ハ之ト同様ノ亞米利加合衆國金貨弗ヲ以テ各利息支拂期日ノ少クトモ十五日前ニ右支拂期日ニ支拂フルベキ利息ノ拂渡シニ充分ナル資金ヲ又大正三十三年八月一日ノ少クトモ十五日前ニ右期日ニ拂渡サルベキ殘存社債元金ノ拂渡シニ充分ナル資金(但其目的ニ使用サルル金員ニシテ未ダ財務擔當者ニ供託サレ居ラザル範圍ノモノ)ヲ財務擔當者ニ供託スベキコトヲ約諾ス財務擔當者ハ右會社ノ供託金ノ中ヨリジェー・ヘンリー・シユレーダト・エンド・コンパニーニ對シ英國倫敦市同店ニ於テ支拂ノ爲メ呈示サレタル債券及利札ニ對シ英金貨ヲ以テ拂渡スニ必要ナル金員ヲ分配ス右送金費用及金貨壹磅ニ對スル換算率タル四・八六六五弗以上ノ爲替差金ハ財務擔當者ノ要求ニ應ジ會社之ヲ補償スベキモノトス。

第五條 會社ハ左記事項ヲ約諾ス。
會社ハ現在工場財團ノ所有權ヲ有ス會社ハ右財團ヲ本書規定ノ方法ニ依リ受託會社ニ對シ抵當權ヲ設定スルニ付適法ノ權能ヲ有シ其他會社ハ擔保タル工場財團ニ對シ完全ナル權利ヲ有スル會社ハ受託會社及社債權者ノ爲メ凡テノ者ノ請求ニ對シ右財團ヲ保有シ之ヲ擁護ス其他會社ハ其有スル權利ノ許可條件ヲ充分ニ遵守ス可シ。

第六條 會社ハ債券發行ニ先ダチ本書ヲ提出シ之ニ基キ設定サレタル抵當權ノ登記ヲ受ケ又債券及利札ニ對シ會社ノ支拂ウベキ金額其他本書規定ニ基キ支拂ウルベキ金額ノ支拂保證ノ爲メ本書規定ニ

從テ工場財團上ニ右抵當權ヲ第一順位ノ抵當權トシテ設定スル爲メ法律ヲ要求スル其他一切ノ行爲ヲ爲スベキコトヲ約諾ス會社ハ財務擔當者ノ要求スル時方法及方法ニ於テ自己ノ費用ヲ以テ日本ニ於テ本書第六章第十七條及第九章ニ規定スル會社合併及工場財團ノ賣買讓渡ニ關スル制限及第六章第十八條ニ規定スル會社財產ヲ擔保トスル今後ノ社債發行ニ關スル制限及本書規定ノ條件中財務擔當者ノ指定スルモノニ付公告ヲ爲スベキコトヲ約諾ス。

會社ハ本社債拂込金受領後二週間以内ニ本店所在地タル日本東京市並ニ支店所在地タル日本名古屋市及大阪市ニ於テ社債總額利率及元利金支拂方法及期限等法律ヲ要求スル一切ノ事項ニ付登記ヲ受クベシ會社ハ本書ヲ提出シテナス抵當權設定及社債ノ登記及新タニ財團ニ屬セシムル變更登記ニ關スル一切ノ登録稅及費用ヲ支拂ウベシ會社ハ本書並ニ本書ニ基ク抵當權又ハ債權利札ニ關シ課セラルル印紙稅其他ノ税金負擔ヲ支拂ウベシ。

第七條 會社ハ其所有ニ係ル一切ノ架空及地下ノ送電線電話線ハ有効ニ存在スル架設權ノ下ニ維持サラルコト且其當時存在スル工場財團ニ含マルル前記ノ線ハ維持サラル架設地使用契約ニ對スル一切ノ相手方ヨリ社債券、利札其他本書規定ニ依リ會社ガ支拂ウベキ一切ノ金額ノ支拂ヲ擔保スル爲メ右架設地使用ノ權利ヲ抵當ニ入ルルコトノ同意ヲ得ルコトニ最善ノ努力ヲ爲スベキコトヲ約諾ス。

會社ハ右同意ヲ得ルニ至ル迄各營業年度締切後四十五日以内ニ受託會社及財務擔當者ニ對シ前記ノ同意ヲ得ルコトニ付進捗ノ程度ヲ相當詳細ニ記載シタル報告書ヲ提出スベシ之ニハ會社ノ社長又ハ副社長一名署名シ且財務擔當者ノ認ムル顧問技師ノ承認ヲ附スベシ會社ハ各營業年度ノ締切後九十日以内ニ其年度中ニ同意ヲ得タル架設地使用ノ權利ヲ本書ニ基キ設定サレタル抵當權ノ目的物ニ線入ルル爲メ法律ヲ要求スル所ノ追加證書ヲ受託會社ヲ相手方トシテ作成シ且登記其他ノ方法ニヨリ手續ヲ執ルベキコトヲ約ス架設地使用契約ノ期間滿了シ會社ニ於テ其延長又ハ更新ヲ爲ス事能ワザル場合又ハ何時ニテモ其當時存在スル工場財團ニ屬スル送電線又ハ電話線ノ架設地使用ノ權利ノ存續ヲ妨グルガゴトキ行爲アリタル場合ニ於テ會社ハ直チニ行政ノ發動ニ依リ補償ヲナシテ右架設地使用ノ權利ヲ獲得スル手續ヲ取ルベシ但財務擔當者ノ認ムル顧問技師ガ受託會社及財務擔當者ニ對シ該使用權ハ會社ノ營業上必要ナラザル旨ヲ書面ヲ以テ證明シタルトキハ此限リニ非ズ右手續又ハ其他ノ方法ニヨリ前記工場財團ニ屬スル送電線又ハ電話線ノ架設地使用ノ權利ヲ獲得シタル時ハ直チニ法律ノ許ス範圍ニ於テ右權利ヲ本書ニ基キ設定サレタル抵當權ノ目的ニ線入ルル爲メ法律ヲ要求スル追加證書ヲ受託會社ヲ相手方トシテ作成シ且登記其他ノ方法ニヨリ手續ヲ取ルベシ會社ハ前記各送電線又ハ電話線ニ關シ現ニ存スル又ハ將來締結スル架設地使用ノ契約ニ基ク一切ノ權利ヲ保有シ更新シ維持スル爲メ必要ナル一切ノ手續ヲナシ且之ニ必要ナル支拂ヲ爲スベシ而シテ會社ハ

右權利ヲ消滅セシムルガ如キ不履行ヲ爲シ又ハ斯ル行爲ヲ許容スルコトアルベカラズ但會社ニ於テ受託會社及財務擔當者ニ對シ財務擔當者ノ認ムル顧問技師ノ作成ニ係ル證明書ヲ以テ斯ル行爲ハ會社ノ營業遂行上支障ナキ旨ヲ立證シ十五日前ノ豫告ヲ以テ其旨ヲ通告シタル時ハ會社ハ前記權利ヲ消滅セシメ又ハ其消滅ヲ許容スルコトヲ得。

第八條 會社ハ前掲工場財團一般品目中シ一項ニ略記セル本會第六號(大井)ト稱スル目下工事中ノ水力電氣發電所ノ工事及施設ヲ速カニ完成シ其完成ト同時ニ工場財團ニ繰入レラザリシ部物ヲ本書ニ基キ設定サレタル抵當ニ入ルル爲メ法律ノ必要トスル追加證書ヲ受託會社ヲ相手方トシテ作成シ且登記其他ノ方法ニ依ル手續ヲ爲スベキコトヲ約諾ス。

第九條 會社ハ大正十四年二月一日迄ニ日本愛知縣西春日井郡春日村所在清州開閉所ノ一切ノ財産及日本長野縣西筑摩郡大桑村所在須原開閉所ノ一切ノ財産(即上記夫々ノ開閉所ノ一部ヲ構成スル宅地、原野、田畑、及他ノ土地一切、上記夫々ノ開閉所地内ニ定着スル開閉所、建物、並他ノ造營物一切、鐵塔、鐵構並ニ之ニ附屬スル他ノ工作物一切、發電機、變壓器、配電盤、開閉器、避雷器、起重機、計器並ニ各工場内ノ各種ノ設備一切及上記諸開閉所ニ包含セララルル他ノ財産並ニ權利)ヲ本書ニ基キ設定セラレタル抵當ニ繰入ルル爲メ法律ノ必要トスル追加證書ヲ受託會社ヲ相手方トシテ作成シ且登記其他ノ方法ニ依ル手續ヲ爲スベキコトヲ約諾ス。

第十條 會社ハ受託會社又ハ財務擔當者ノ要求アルトキハ可及的速ニ日本長野縣西筑摩郡上松町大字萩原所在ノ一切ノ財産及同縣同郡字井戸澤七八ノ四乃至七八ノ七。字境ノ澤八〇ノ四乃至八〇ノ七。字古田九四六ノ二及九四九ノ二並ニ字一ノ澤三三四イ所在ノ一切ノ財産ヲ本書ニ基キ設定サレタル抵當ニ繰入ルル爲メ法律ノ必要トスル追加證書ヲ受託會社ヲ相手方トシテ作成シ且登記其他ノ方法ニ依リ手續ヲ爲スベキコトヲ約諾ス。

第十一條 會社ハ各事業年度後四十五日以内ニ其事業年度中ニ會社ガ取得シタル各種ノ財産及權利ニシテ其當時存在スル工場財團ニ屬スルモノニ關シ取換、更新、延長、改良又ハ附加シタル財産及權利ニ付キ其性質、所在、用法及價格ヲ相當詳細ニ示シタル證明書ヲ作成シ會社ノ社長又ハ副社長ノ一名之ニ署名シ且財務擔當者ノ認ムル顧問技師ノ證明ヲ附シ之ヲ受託會社及財務擔當者ニ提出スベキコトヲ約諾ス前記ノ取換、更新延長改良又ハ附加シタルモノニ關スル右技師ノ決定ハ會社ヲ拘束ス可キモノナリ會社ハ各事業年度後六十日以内ニ其年度内ニ會社ガ取得シ又ハ工場財團ニ屬スルモノニ關シ取換、更新、延長、改良又ハ附加シタル一切ノ財産及權利ヲ本書ニ基キ設定サレタル抵當ニ繰入ルル爲メ法律ノ必要トスル追加證書ヲ受託會社ヲ相手方トシテ作成シ、且登記其他ノ方法ニ依リ手續ヲ爲スベキコトヲ約諾ス且會社ハ財務擔當者ニ對シ前記財産ガ工場財團ニ追加セラレ且本書ニ基ク抵當ニ適法ヲ繰入レラレタルコトニ付財務擔當者ノ認ムル法律顧問ノ意見書ヲ提出スベ

第十二條 會社ハ本書ニ基キ設定セラレタル抵當權ハ工場財團上第一順位ノ抵當權ニシテ右抵當權ハ常ニ其當時存在スル工場財團並ニ之ニ關シ取換更新、延長改良又ハ附加シタルモノ並ニ會社ガ現在又ハ將來取得シ本書規定ノ條件ニ依リ工場財團ニ附加シタル財産上ノ第一順位抵當權トシテ保有スベキコトヲ約諾ス會計ハ如何ナル場合ト雖モ本書ニ基キ設定セラレタル抵當權ト同一又ハ優先ノ効力アル權利負擔ヲ工場財團上ニ任意ニ設定シ又ハ設定セラルルコトナシ又會社ハ前記工場財團ノ全部又ハ一部又ハコレヨリ生ズル收入及利益又ハ右工場財團ニ關シ又ハ本書規定ニ依リ受託會社債券利札所持人ノ有スル權利ニ對スル一切ノ税金及官廳ノ課スル諸費ヲ支拂イ且技術者職工其他ノ者ノ要求ニ付未拂ノトキ法律上前記抵當權ニ先ダチ又ハ之ト同等ノ順位ニ於テ支拂ワルガ如キモノヲ支拂イ解決スベシ又會社ハ一般ニ其費用ヲ以テ受託會社及凡テノ社債、利札所持人ノ爲メ前記抵當權ノ優先的權利ヲ保護スルニ必要ナル凡テノ行爲ヲ爲スベシ但本條ノ規定アルモ受託會社ニ於テ債權及利札ニ對スル擔保力ガ實質上危險ナク又阻害セラレズトノ意見ヲ有スルトキハ會社ハ前記ノ税金賦課又ハ要求ニ對シ抗爭スルコトヲ妨ゲズ。

第十三條 會社ハ本書ニ依リ抵當ニ入レラレタル又ハ斯ク要求セラレタル又ハ會社ガ今後受託會社ニ對シ抵當權ヲ設定スル義務生ジタル一切財産利權及權利ヲ受託會社ニ對シ更ニ確實ニシ且會社ガ設定スベク約定シタル抵當權ヲ保護シ保存スル爲メ受託會社及財務擔當者又ハ其一ノ要求スル方法ニ依リ受託會社又ハ財務擔當者各個ノ要求スル法律上ノ證書ヲ作成交附シ又ハ作成交附セシム可キコトヲ約諾ス。

第十四條 會社ハ努メテ自己ノ存續及現ニ有シ又ハ將來取得スル權利特權及利權ヲ保有シ又前記利權ノ許可條件ヲ遵守シ其當時存在スル工場財團ノ全部又ハ一部ニ適用サルル國家ノ統治執行行政又ハ司法機關ノ一切ノ行爲規定命令及指揮ヲ遵守スベキコトヲ約諾ス但右行爲、規定命令及指揮ニ付抗爭スルコトヲ得又右抗爭ノ繼續中ハ受託會社ニ於テ之レニ依リ實質上債券及利札ニ對スル擔保力ヲ危險ナラシメヌ又ハ阻害セズトノ意見ヲ有スルトキハ右異議ヲ留メタル事項ノ履行ヲ見合ワスコトヲ得會社ハ其營業上ノ權利ヲ消滅シ制限シ又ハ債券利札ニ對スル支拂ヲ阻害スルガ如キ行爲ヲ爲シ又ハ爲サシム可カラズ。

第十五條 會社ハ左記事項ヲ約定ス。
會社ハ工場團體ニ屬スルト否トヲ問フズ其一切ノ財産ニ對シ充分ナル運轉力ヲ有セシメ且之ヲ修繕シテ維持シ保有ス可シ會社ハ其全營業系統ヲ通ジ最高ノ運轉能力ヲ充分ニ維持シ得ル如キ機械及施設物ヲ備付可シ會社ハ隨時其腐蝕シ毀損磨滅シタル建設物又ハ機械器具ヲ新タニシ又ハ取換ニ以テ債券及利札ニ對スル支拂能力及會社ノ營業能力ヲ充分ニ維持保有ス可シ。

會社ハ各事業年度ニ於テ其年度中本條ニ記載セル標準ニ從テ其財產ノ維持ニ要シタル一切ノ費用ヲ右年度ノ營業費用中ニ繰入レ又大正十三年十一月三十日ヲ終期トスル事業年度ヲ以テ始ル各事業年度ニ於テ會社ハ其年度ノ純收入中ヨリ法定積立金配當金又ハ賞與、其他ノ形式ニ依ル特別報酬ノ割當ヲ爲ス前ニ減價銷却積立金トシテ適當ノ額ヲ計上スベキコトヲ約諾ス各事業年度ニ於テ右減價銷却積立金トシテ計上セラルベキ金額ハ財務擔當者ノ認ムル顧問技師ガ會社ノ費用ヲ以テ作成セル減價銷却表ニ從テ決定セラルベキモノナリ右表ハシツクス・パセント・アニユアル・シンキング・フアント・メウツトト稱スル方法ニ基キ作成セラルベキモノニシテ大正十三年五月三十一日現在貸借對照表(ハロルトベル・テイフイー・ハード・エンド・コンパニーノ證明ニ係ル)ニ記載セル會社ノ減價銷却ヲ要スル財產全部ニ適用サレ尙前記期日以後ニ於テ會社ガ建設シ又ハ取得スル一切ノ財產ニ對シテモ亦同斷ナリ但財務擔當者ガ大正十六年八月一日以後何時ニテモ會社ニ對シ前記表ノ證明スル處ガ不適當ナリト思考スル旨通告シ且其訂正ヲ要求シタルトキハ會社ハ爾後各事業年度ノ減價銷却積立金トシテ計上スル金額ヲフオー・パセント・アニユアル・シンキング・フアント・メウツトト稱スル方法ニヨリ必要トスル金額ヲ超エザル額迄増加スル様右表ノ作成換ヲ爲スベク又ハ財務擔當者ノ欲スル處ニ依リ各事業年度ノ維持費並ニ減價銷却積立金トシテ右年度ノ總純收入金ノ一割五分以上ニ當ル金額ヲ積立ツベシ而シテ右減價銷却積立金ノ計上ハ右總純收入金ノ八分以上トス會

社ニ於テ動力ノ小口供給ニ從事スル場合之ニヨリ生ズル純收入ガ其年度ノ總純收入金ノ四割又ハ夫レ以上ニ當ルトキハ前記歩合ハ各二割及一割二分ニ増加セラルベキモノトス。

第十六條 會社ハ其當時存在スル工場財團ニ付火災ニ依ル損害其他日本ニ於ケル同種ノ營業ニ從事スル相當ナル會社ガ通常保險ニ附スベキ事故ニ對シ受託會社ガ満足スル有力ナル保險會社ト右財團ノ全被保險價格ノ保險契約ヲ爲スベキコトヲ約諾ス。

保險證券ニ基ク損害ノ填補ハ其證券ノ條項ニ依リ受託會社ニ支拂ワルベキモノトナシ且其他右財團ニ關シ會社ガ締結スルコトアルベキ各地ノ保險ニ付テモ保險金ハ一切同様ニ支拂ワルベキモノト爲スベシ右保險證券ハ一切受託會社ノ要求ニ應ジ受託會社ニ預入ルベシ本證書作成後會社ハ直チニ右保險證券ノ表及保險金ノ支拂ハ受託會社ニ對シ支拂ワルベキ様取計イタル旨記載シタル書面ヲ作り會社ノ社長又ハ副社長ノ一名ノ署名ヲ附シ之ヲ受託會社ニ交附スベシ。

爾後右工場財團ニ屬スルモノニ付追加又ハ別箇ノ保險證券ノ發行アリタルトキハ會社ハ右追加又ハ別箇ノ證券ニ關スル同様ノ書面ヲ受託會社ニ交附スベシ。

保險金全部(但各損害ニ對スル一萬弗以下ノ支拂金ヲ除クモノトス右金額ハ受託會社ガ會社ノ書面ニ依ル要求ニ應ジ會社ニ對シ排渡スベキモノニシテ會社ハ工場財團ノ利益ノ爲メ毀損又ハ滅失セラル財產ノ取換、修繕又ハ再築其他ノ目的ニ之ヲ使用ス)ハ受託會社之ヲ受領シ債券又ハ利札ニ對ス

年併(イ)受託會社ハ右受領セル保險金ノ中ヨリ毀損又ハ減失セル財産ノ取換、修繕又ハ再築ノ爲メ會社ガ支出シタル費用ト同額ヲ會社ニ對シ拂渡スベキモノトス會社ニ於テ右拂渡ヲ要求スルトキハ右費用ヲ以テ取得シタル財産ハ會社ガ所有シ本書ニ基キ設定サレタル抵當ニ繰入タルコトノ受託會社ニ満足ナル法律顧問ノ意見書ヲ受託會社ニ交付スベシ又(ロ)右金額ハ本書中第八章第四條ニ於テ財團ヨリ解除サレタル財産ノ賣却代金ノ處分方法ニ關シ規定セルト同様ノ方法及條件ニ依リ之ヲ充當スルコトヲ得但シ右金額ヲ社債ノ償還ニ充當シタルトキハ其償還社債ニ對スル利息ハ會社ヨリ別ニ支拂ウベク右金額中ヨリ之ガ支拂ヲナスベカラズ尙右金額ヲ以テ償還ヲ爲シタル場合ト雖モ減債基金勘定トシテ會社ガ支拂ウベキ金額ヲ減少スルコトナシ本條ニ基キ受託會社ニ支拂ワレタル金額ニ對シ受託會社ノ附スル利息ハ會社ガ工場財團ヲ所有シ且本書所定ノ不履行ナキ限リ會社ニ對シ之ヲ支拂ウベキモノナリ會社ハ一切ノ保險證券ニ基ク保險料ヲ支拂ウベシ。

第十七條 會社ハ左記ノ場合ノ外會社ノ合併ヲ爲シ又ハ工場財團ヲ賣買讓渡セザルベキコトヲ約諾ス。

(イ) 合併會社或ハ賣買讓渡ノ相手方ガ本書ニ基キ設定サレタル抵當權附ニテ工場財團ヲ取得シ其當時未償還社債ノ元利金ニ付其文言ニ從ツ適確ナル支拂及本書並ニ追加證書ニ規定スル一切ノ條件

ノ適確ナル履行ノ責ニ任ズベキコトヲ以テ右合併又ハ賣買讓渡ノ條件トシタル場合 (ロ) 右工場財團ニ付本書ニ基キ設定サレタル抵當權ニ優先シ又ハ同等ノ順位ニ在ル抵當權其他ノ負擔ヲ設定セザルコトヲ以テ右合併又ハ賣買讓渡ノ條件トシタル場合 (ハ) 第九章ニ規定スル其他ノ制限及條件ニ順應シテ右合併又ハ賣買讓渡スル場合

會社ハ前掲約定ヲ保證スル爲メ本書作成ト同時ニ工場財團所有權保存ニ關スル登記濟證ヲ受託會社ニ預入ルベシ其後ト雖モ隨時本書中規定スル如ク工場財團ノ一部トシテ附加シタル財産ノ登記ヲ證スル原本タル書類ヲ受託會社ニ預入ルベシ之等ノ書類ハ債券及利札所持人ノ爲メ受託會社ニ於テ信託的ニ之ヲ保存スルモノニシテ會社ノ合併又ハ工場財團ノ賣買讓渡ニ關シ前記書類ヲ會社ニ引渡シ又ハ會社ノ使用ニ供スベカラズ但合併又ハ賣買讓渡ガ本條及第九章ノ規定ニ依リテ爲サル場合又ハ右合併賣買讓渡ノ手續ノ完了ト同時ニ會社ト合併シタル會社又ハ賣買讓渡ノ相手方ガ其名義ニ於ケル工場財團所有權登記濟證ヲ證スル書類原本ヲ本書規定以外ノ合併又ハ賣買讓渡ヲ防グ方法トシテ債券及利札所有者ノ爲メ受託會社ニ預ケ入ルル場合ハ此限リニアラズ會社ハ一般ニ滿期到來セル債券及利札ノ金額其他本書規定ニ依リ支拂ウベキ金額ヲ全部拂渡ス迄ハ其當時存在スル工場財團ヲ抵當權ノ目的ヨリ解除スルガ如キ手續ヲ採ラザルコト且右ノ如キ解除ヲ防グ爲メ受託會社ニ於テ必要ト認ムル一切ノ行爲ヲ爲スベキコトヲ約諾ス。

第十八條 會社ハ左記事項ヲ約諾ス會社ハ現在所有シ又ハ將來取得スル財產（其當時存在スル工場財團ニ屬スルモノヲ除ク）ニ付其建設費（本章第十五條規定ニ依リ計算セラレタル減價銷却金ヲ控除ス）又ハ再建設費ノ評價額ノ何レカ少キ額ノ五割以上ニ當ル元本ノ抵當權ヲ設定セザルモノトス又會社ハ前記債務發生前ノ十五ヶ月内連續セル十二ヶ月ニ對スルフアンテツト・テツトノ利息ニ充ツベキ會社ノ純收入ガ右債務發生當時殘存セルフアンテツト・テツト全部ニ要スル一ヶ年分利息總額ノ少クトモ二倍ニ相當スルニテラザレバ右財產上ニ抵當權ヲ設定セザルモノトス又抵當權ニ依リ擔保セラレル會社ノ債務總額ハ如何ナル場合ト雖モ全財產ノ建設費（前記ノ方法ニ依リ計算セラレタル減價銷却金ヲ控除ス）又ハ再建設費ノ評價額ノ何レカ少キ額ノ五割ヲ超過セザルモノトス本書記載ノ用語フアンテツト・テツトトハ會社ノ擔保附社債無擔保社債及會社債務ニシテ其日附ヨリ一ヶ年以上ノ期間ヲ以テ滿期トスルモノヲ云イ銀行借入金手形又ハ普通營業上生ズル支拂勘定ヲ含マズフアンテツト・テツトノ利息ニ充ツベキ會社純收入ハ亞米利加合衆國ニ於テ會社ト同種ノ營業ニ對シ免許會計士ノ用ウルモノニシテ財務擔當者ノ認ムル完全ナル算定方法ニ從イ決定スベキモノトス但右純收入ノ算定ニ當リ減價銷却ニ對シテ爲ス控除ハ前期ノ方法ニ依リ算出スベキモノトス又建設勘定ニ對スル利息ニ付適當ノ注意ヲ爲スベキモノトス。

會社ハ前記財產上ニ抵當權ヲ設定スルニ先ダチ受託會社及財務擔當者ニ對シ (イ) 抵當權ノ目的タ

ルベキ財產ニ關シ財務擔當者ニ満足ナル免許會計士ノ證明ニ係ル會社ノ建築費及財務擔當者ノ認ムル顧問技師ノ證明ニ係ル再建設費ノ評價額ヲ示セル完全ナル表 (ロ) 連續セル十二ヶ月（其ノ期間ノ末日ハ右債務發生ノ日以前三ヶ月以上ナラザルモノ）ニ對スル會社ノフアンテツト・テツト（本條規定ノ定義參照）ノ利息ニ充ツベキ會社純收入ヲ相當詳細ニ示シタルモノ且右債務發生當時殘存スル一切ノフアンテツト・テツトニ要スル一ヶ年分利息總額ヲ示セル前記會計士ノ證明書ヲ交附スベキモノトス

上記ノ表及證據書類中ニ掲ゲラレタル記載事項並ニ數字ハ本條規定ニ基キ會社ガ上記提案ノ債務ヲ發行シタルノ資格アルヤ否ヤヲ確定的ニ決定スルモノナリ。

第十九條 會社ハ大正十三年六月一日以後ニ生ズル會社ノ純收入ノ内ヨリ爲スノ外又ハ會社ノカーレント・アセツツヨリ配當及役員従業員ノ賞與トシテ支拂ウベキ金額ヲ控除シタル後會社ノ純カーレント・アセツツ（本條ノ規定參照）ガ金五百萬圓未滿ノトキハ配當ヲ爲シ又ハ名義ノ如何ニ拘ラズ之レニ類似ノ分配ヲ爲ス可カラズ會社ノ配當ニ充ツベキ純收入ノ算出方法ハフアンテツト・テツト（本章第十八條規定ノ定義參照）ニ對スル利息ニ充ツベキ純收入（右純收入ハ大正十三年六月一日以後ニ生ジタルモノニ限ル）ヨリ會社ノ凡テノ負債ニ對スル支拂濟又ハ未拂ノ利息金額（建設費利息ヲ除ク）及會社ト同種ノ營業ニ對スル亞米利加合衆國ノ免許會計士ガ用ウル完全ナル計算方法ニ

シテ財務擔當者ノ認ムル方法ニ從テ通常配當ニ充ツベキ純益算出ノ際控除スル一切ノ費用並ニ積立金ヲ控除シテ之ヲ算出スベシ純カーレント・アセツツヨリカーレント・アセツツヨリカーレント・ライアヒリテイスヲ控除シテ算出スベシ本書記載ノ用語カーレント・アセツツトハ會社ノ左記資産ヲ指ス。

(イ) 手許現金 銀行預金

(ロ) 營業上取得シタル取立可能ノ受取手形、受取勘定ニシテ質入セザルモノ及其手形、勘定ノ日附後一ケ年以内ニ滿期到來スルモノ但同系會社（會社ニ於テ其會社ノ株式ノ過半數ヲ有スルモノ）ニ對スル受取手形受取勘定ハ會社ノカーレント・アセツツト看做サズ右同系會社ノカーレント・

アセツツ（本書定義ニ依ル）カ會社ニ對スル支拂手形、支拂勘定ノ含ムカーレント・ライアヒリテイス（本書定義ニ依ル）ノ少クトモ二倍ナルトキハ此限リニアラズ。

(ハ) 取引容易ナル株式、社債、其他フアンテツト・テツトノ證書（會社又ハ同系會社ノ發行セルモノヲ除ク）ニシテ其當時ノ市場價格ヲ附セルモノ

本書記載ノ用語カーレント・ライアヒリテイストハ會社ト同營業ニ對スル亞米利加合衆國ノ免許會計士ガ用ヅル完全ナル計算方法ニシテ財務擔當者ノ認ムル方法ニ從テ負債ト稱セラルル會社ノ負債（税金、給料、豫定支拂利子及次期六ヶ月以内減債基金勘定トシテ支拂ワルベキ金額ヲ含

ム）ヲ指ス但シ本社債又ハ本社債以外ノフアンテツト・テツトヲ含マズ。

第二十條 會社ハ每半期其計算書ニ付財務擔當者ノ認容スル免許會計士ノ検査ヲ受ケ財務擔當者ニ對シ左記ノ期間ニ之ヲ送附ス。

(イ) 每半期事業年度ノ各三ヶ月ノ締切後七十五日以内

(ロ) 右各三ヶ月中ニ於ケル相當詳細ナル會社ノ收入勘定

(ハ) 右各三ヶ月中ニ於ケル會社ノ利益處分勘定

右兩者共社長又ハ副社長一名ノ署名ヲ附スルコト。

(ニ) 每半期事業年度ノ前三ヶ月締切後七十五日以内

(イ) 右三ヶ月末現在ノ會社ノ資産状態ヲ示ス貸借對照表

(ロ) 右三ヶ月末ニ於ケル會社ノカーレント・アセツツ及カーレント・ライアヒリテイスニ關スル相當詳細ナル書類

右兩者トモ社長又ハ副社長一名ノ署名ヲ附スルコト。

(ハ) 年二回ノ事業年度ノ締切後九十日以内

(イ) 右事業年度末現在ノ會社ノ資産状態ヲ示ス貸借對照表

(ロ) 右事業年度ニ於ケル會社ノ收入勘定

第一 大同電力株式會社七分利付米貨債關係

- (三) 右事業年度ニ於ケル會社ノ利益處分勘定ニシテ配當、役員及従業員ノ賞與並ニ積立金ノ割當ヲ示スモノ（右年度末後ニ開カレタル株主總會ノ承認ヲ經タルモノ）
- (四) 右事業年度末ニ於ケル會社ノカーレント・アセツツ及カーレント・ライアヒリテイスニ關スル相當詳細ナル書類
- 右全部免許會計士ノ證明ヲ附スルコト。
- (二) 毎曆年ノ後半期事業年度締切後九十日以内ニ右免許會計士ノ證明ニ係ル右事業年度締切前十二ヶ月間ニ於ケル相當詳細ナル會社ノ收入勘定書
- (ホ) 會社株式ニ對スル配當決定後六十日以内ニ左記事項ニ關スル社長又ハ副社長一名ノ署名ヲ附セル書類、右配當金額、配當決定ノ日並ニ之レガ支拂ノ日、大正十三年六月一日以後ニ生ゼル配當ニ充ツベキ會社ノ純益（本第六章第十九條ノ規定参照）ハ右配當金額ニ超過セルコト、會社ノカーレント・アセツツノ額ハ配當並ニ役員又ハ従業員ノ賞與（決定シ未拂ノモノ）ノ額ヲ控除シタル後尙カーレント・ライアヒリテイスニ對シ少クトモ五百萬圓以上ナルコト。
- (ハ) 配當支拂後六十日以内ニ右配當支拂ノ日ノ前月ノ末日現在ニ於ケル會社ノカーレント・アセツツ及カーレント・ライアヒリテイスニ關スル相當詳細ナル書類ニシテ社長又ハ副社長一名ノ署名ヲ附セルモノ
- (ロ) 財務擔當者ノ要求アルトキ（但年一回限リ）財務擔當者ノ認ムル顧問技師作成ニ係ル會社財産ノ狀態、減價銷却及維持ノ爲メノ費用其他財務擔當者ガ右費用ガ維持及減價銷却ニ充分ナリヤ否ヤヲ決定スルニ必要トスル事實ニ關スル相當詳細ナル報告書
- 會社ハ財務擔當者ニ對シ會社ノ計算、財産、及營業ニ關シ相當要求セラルベキ報告書ヲ提出スベシ且本條(ハ)(ホ)及(ハ)ノ規定ニ基キ財務擔當者ニ提出スベク要求セラルル財産報告書ヲ受託會社ニ提出スベシ。

第三十一條 會社ハ其當時存在スル工場財團ノ全部又ハ一部ガ國家ノ權力ニ依リ買收セラレ又ハ沒收セラレタルトキハ其代金ヲ即時受託會社ニ供託スベキコトヲ約定ス會社ハ第八章第四條(イ)ニ特定セル目的ノ爲メ右第四條規定ノ書類ヲ提出シタル上右受託會社ニ供託シタル金額ヲ引出スコトヲ得又受託會社ガ左記ノ書類ヲ受取リタルトキハ右金額ヲ引出スコトヲ得 (イ)會社ガ記號番號アル債券ヲ抹消ノ爲メ立會署名者ニ提出シタル旨ノ立會署名者ヨリノ通知 (ロ)右立會署名者ニ提出シタル債券（記號番號ヲ提グルコト）ハ會社ニ於テ社債償還ノ爲メ又ハ減價基金勘定トシテ財務擔當者ニ供託シタルモノ以外ノ資金ヲ以テ買入レタルコト又其元利金ニ對シ會社ノ支拂イタル價格ヲ示シタル社長又ハ副社長一名ノ署名ヲ附シタル書類（會社ノ引出シ得ル金額ハ右社債元金ニツキ會社ノ支拂イタル金額ニ等シキコト且支拂額ハ社債元金額ヲ超過セザルコト）、右受託會社ニ供託シタル金額ニシ

ヲ五百萬圓ヲ超過シタルトキハ會社ノ要求ニ應ジ受託會社ハ右超過額ノ全部又ハ會社ノ指定スル額ヲ減債基金勘定トシテ會社ノ支拂ウベキ金額ニ充當スル爲メ之ヲ財務擔當者ニ送金スベキモノトス。

第二十二條 會社ハ左記事項ヲ約諾ス。

如何ナル場合ト雖モ受託會社又ハ財務擔當者ノ要求アルトキ會社ハ受託會社又ハ財務擔當者又ハ此目的ノ爲メ之等ノモノガ指定スル事務員、代理人會計士其他ノ者ヲシテ會社ノ工場其他ノ財産ヲ検査セシメ又受託會社又ハ財務擔當者ノ要求アルトキハ會社所有ニ係ル財産ノ正確ナル明細表ヲ提出スベシ。

受託會社又ハ財務擔當者ノ要求アルトキハ會社ハ右相當要求セラルル方法及詳細ノ程度ニ於テ會社ノ營業狀態ヲ示ス書類ヲ提出スベキコトヲ約諾ス會社ハ其所有ニ係ル土地、工場、動産及業務ニ關スル一切ノ事項ヲ網羅セル記録及計算書ヲ備付クベシ。

第二十三條 會社ニ於テ本章第六條、第七條、第八條、第十二條、第十四條、第十五條及第十六條所定ノ事項ニ付不履行アリタルトキハ受託會社ハ會社ニ代ツテ之ヲ履行シ支拂ヲ爲スコトヲ得

此場合ニ於テハ會社ハ即時右支拂金並ニ右ニ關シ生ジタル受託會社ノ立替金及費用ニ返濟當時ニ於ケル日本銀行當座貸越日歩ニ依ル利率ヲ附シ之ヲ受託會社ニ返濟スベシ。

右受託會社又ハ之ニ代リテ他ノ者ガ爲シタル支拂金並ニ之ニ關シ生ジタル立替金及費用ハ債券及利札ニ先ダチ本書ニ基キ設定サレタル抵當權ニ依リ擔保セラルベキコトヲ茲ニ宣言ス。

受託會社ニ於テ右支拂ヲ爲シタル場合ト雖モ本書規定ニ依ル會社ノ不履行ノ責ヲ免除スルモノニアラズ。

第七章 受託會社及ヒ社債權者ノ有スル救濟方法

第一條 左記ノ事由ノ一又ハ夫レ以上ノ事由發生シタル時(本章ニテ之ヲ不履行ノ効果ト稱ス)

- (イ) 社債利子ノ支拂ニ付其支拂期ニ於テ不履行アリ且六十日間繼續シタル場合
- (ロ) 社債元金ノ支拂ニ付其支拂期日ニ於テ(滿期ニ依ルト又ハ期限ノ利益ヲ失イ又ハ其他ノ方法ニ依ルトヲ問ワズ)不履行アリタル場合

(ハ) 減債基金勘定トシテ要求サレタル金額ノ拂込ニ付不履行アリ且六十日間繼續シタル場合

(ニ) 債券上又ハ本書中記載セル其他一切ノ規約又ハ條件ノ履行ニ付會社側ニ於テ不履行アリ而シテ受託會社ヨリ會社又ハ其承繼人又ハ讓受人ニ對シ其不履行ノ事實ヲ指摘シ之ガ救濟ヲ要求セル書面ニ依ル催告ヲ爲シタル後尙六十日間右不履行繼續シタル場合但右催告ハ其ノ當時ニ於ケル社債總額ノ二割五歩以上ニ當ル社債權者若クハ財務擔當者ノ書面ニ依ル要求ニ基キ受託會社ガ義務ト

シテ爲スベキモノトス。

(ホ) 當該官廳ノ決定ニ依リ會社ガ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合又ハ會社財産ニ對スル管理人ヲ選任スル法律規定ニ依リ該工場財團又ハ其他ノ會社財産ノ全部若クハ主タル部分ニ對スル管理人若クハ管財人ノ選任アリタル場合

(ヘ) 會社自ラ破産申請ヲ爲シタル場合又ハ其債權者ノ爲メ財産讓渡ヲ爲シタル場合又ハ解散シタル場合

右各項ノ一ニ該當スル時事態發生シタル時

第一 斯ル不履行ノ効果繼續中(一)適法ニ招集セラレタル社債權者集會ニ於テ議決權行使ノ資格ヲ有スル社債權者 總數ノ少クトモ半數以上ニシテ社債現存額ノ少クトモ半額以上ニ當ル社債權者ガ議決權ヲ行使シ其過半數ニ依ル決議(此ノ決議方法ヲ以下特別決議ト稱ス)ニ依リ或ハ(二)特別決議ヲ以テ選任サレ且適法ニ資格ヲ附與サレタル代表者ニ依リ要求セラレタル時ハ受託會社ハ現存社債元金總額ニ付即時期限ノ利益ヲ失エル旨申渡スベシ(其當時未ダ期限ノ利益ヲ失ワザル場合)

右申渡アリタル時ハ債券又ハ本書中別段ノ記載アル場合ト雖モ社債元金ハ即時支拂ワルベキモノトス但本條(ロ)項ニ特定セル不履行ノ事實アリタル場合又ハ會社ガ社債元金又ハ本書規定ノ其

他ノ支拂ヲ完了セズシテ解散スル場合ニ於テハ適法ニ招集サレタル社債權者集會ノ議決權ノ過半數ニ依ル決議ニ依リ(此場合議決權行使ノ社債權者ノ員數又ハ社債額ノ特定ナシ)或ハ斯ル集會ニ於テ選任サレ適法ニ資格ヲ附與サレタル代表者ニ依リ要求セラレタル時受託會社ハ上記ノ手續ヲ採ルベキモノトス。

社債元金ニ付キ期限ノ利益ヲ失イ而モ債券面記載ノ滿期日前ニシテ抵當權ノ實行ニ因ル擔保ノ目的物ノ賣却アル迄ハ會社ハ法律ノ許ス場合社債ニ對スル未拂利息並ニ滿期後利息ニ年七歩ノ割合ニ依ル利子ヲ併セ支拂フベク或ハ工場財團賣却代金中ヨリ之ヲ回收セララルモノトス。

又債券若クハ本書記載ノ約定又ハ條件ニ付不履行アリタル場合受託會社ガ満足スル程度ニ之ヲ回復シ又ハ保證ヲ立テタル時ハ右不履行ヲ原因トシテ一旦社債元金ニ付期限ノ利益ヲ失フシメタル場合ト雖モ適法ニ招集サレタル社債權者集會ニ於テ議決權行使ノ資格アル社債權者總數ノ少クトモ三分ノ二以上ニシテ現在社債總額ノ少クトモ三分ノ二以上ニ當ル社債權者ノ過半數ノ決議(此決議方法ヲ以下超特別決議ト稱ス)ニ依リ又ハ右決議ヲ以テ選任シタル代表者ニ依リ要求セラレタル時ハ受託會社ハ前記手續ヲ取消スベキモノトス但右撤回、取消ハ其後ノ不履行ニ何等關係ナク將來ノ權利行使ヲ妨グルモノニアラズ。

第二 受託會社ハ工場財團ノ保護及保存ノ爲メ隨時自ラ必要トスルトキ及特別決議ニ依リ又ハ特別

決議ヲ以テ選任セラレタル代表者ニ依リ要求セラレタル時ハ自ラ又ハ代理人ヲシテ法律ノ許ス場
合右工場財團ノ全部又ハ一部ヲ占有シ又法律ノ許ス限リ右工場財團ヲ使用シ運用シ支配シ且之ニ
關スル營業ヲ爲スコトヲ得右ノ場合受託會社ハ會社ノ費用ヲ以テ會社ノ營業ト同一ノ營業ヲ爲ス
一般會社ガ通常行ウト同様ノ方法及範圍ニ於テ右占有ニ屬スル工場建物、建設物、設備、機械器
具及其他ノ財産ヲ保險ニ附シ又ハ之ヲ更新シ又ハ購入修繕若クハ建設ノ方法ニ依リ之ヲ維持スル
コトヲ得且又隨時受託會社ハ工場財團ノ負擔ニ於テ必要且適當ノ修繕、取換ヲ爲スコトヲ得又右
工場財團ノ保存上必要トスル範圍ニ於テ之ガ變更追加及改良ヲ爲スコトヲ得斯クノ如キ場合ニ於
テハ受託會社ハ右工場財團ヲ支配シ又之ニ關スル會社ノ營業ヲ爲シ又會社ノ名ニ於テ之ニ關シ會
社ヲ有スル權利ヲ行使スベキモノトス而シテ受託會社ハ工場財團ノ全部又ハ一部ニ關スル利益收
入賃料ヲ回收シ受領スル權限アルモノトス而シテ其中ヨリ前記營業又ハ維持修繕取換、變更、追
加、改良ノ費用及税金保險又ハ其他ノ右工場財團ノ全部又ハ一部ニ關スル一切ノ負擔ニ對スル支
拂並ニ受託會社其代理人法律顧問代理店、事務員雇人又ハ其他ノ使用人ノ勞務ニ對スル報酬ヲ控
除シタル後之ヲ左記ノ目的ニ充當スルモノトス。

(イ) 社債元金ガ期限ノ利益ヲ失イ又ハ其他ノ方法ニヨリ支拂期ニ到來セザル時ハ未拂利息ノ支拂ニ
充當スルコト但各支拂期ノ順序ニ依リ且滿期後利息ニ對シテハ法律ノ許ス場合年七分ノ割合ニ依

ル利子ヲ併セ支拂ウコト右支拂ハ利息請求權者ニ對シ等差又ハ優先ノ取扱ヲ爲スコトナク平等ニ
ナスモノトス但本章第二條規定ノ場合ハ此限リニアラズ。

(ロ) 社債元金ニ付期限ノ利益ヲ失イ且他ノ方法ニ依リ支拂期ニ在ルトキハ先ズ不履行ニカカル利息
ノ支拂ニ充當スルコト但各支拂期ノ順序ニ依リ且前記ノ利子ヲ併セ支拂ウコト次デ社債元金ノ支
拂ニ充當スルコト右支拂ハ其權利者ニ對シ等差又ハ優先ノ取扱ヲ爲スコトナク平等ニ爲スモノト
ス但本章第二條ノ規定ノ場合ハ此限リニアラズ。

(ハ) 社債元金ニ付期限ノ利益ヲ失イ又ハ其他ノ方法ニ依リ支拂期到來セズ且利息ノ支拂ニ付不履行
ナキトキハ其當時發生セル其他ノ不履行ニ對スル辨濟ニ充當スルコト但會社ガ支拂期到來セル社
債元金其他ノ債務ニ對シ全部ノ支拂ヲ爲シ且次ノ半期利息及次期減債基金勘定ノ支拂ニ對シ受
託會社ニ満足ナル方法ヲ講ジ且其他受託會社ガ右不履行救済ノ爲メ必要ト信ズル一切ノ行爲ヲ爲
ストキハ會社ノ要求ニ基キ前記工場財團ヲ會社又ハ其承繼人又ハ其讓受人ニ返濟スベキモノトス
會社ハ前記受託會社ニ依リ工場財團ニ關スル業務ノ運用ニ必要ナル一切ノ便宜ヲ講ズベク且受託
會社ノ要求スル方法範圍ニ於テ會社ノ役員、従業員及代理人ヲシテ受託會社ノ運用ヲ援助スベキ
コトヲ誓約ス。

第三 受託會社ハ特別決議ニヨリ又ハ特別決議ニヨリ選任サレタル代表者ニ依リ要求アル時ハ自ラ

又ハ代理人ニ依リ右決議又ハ代表者ノ指定スル方法又ハ斯ノ如キ指定ナキ時ハ受託會社ノ法律顧問ノ意見ニ基ク方法ニシテ法規ニ反セザル方法ニ依リ自己及社債權者ノ權利保護及實行ノ手段ヲ講ズルモノトス。

第二條 支拂期日ヲ延長シ又ハ其支拂期日ノ前後ヲ問フズ債券ト分離シテ讓渡又ハ質入セラレタル利札(債券ト共ニスル場合ハ此限ニ非ズ)ハ會社ノ不履行ノ事實發生シタル場合ニ於テモ本證書規定ノ利益ヲ受クル資格ナキモノトス但爾餘ノ債券及利札全部ノ支拂アリタル後ハ此限ニアラズ。

第三條 本書規定ニ基キ工場財團全部ノ競賣ヲ爲ス場合ニ於テハ之ヲ一括シ全體トシテ賣却スベキモノトス但全體トシテノ賣却ガ法規又ハ其他ノ理由ニヨリ實行不能ナル時或ハ受託會社ガ集會ノ特別決議ニ依リ又ハ特別決議ニヨリ適法ニ選任サレタル代表者ニヨリ右財産ヲ分離シテ賣却スベキ旨指定サレタル時ハ此限ニアラズ斯ル場合ニ於テハ法律規定ニ基キ又ハ前記決議或ハ前記代表者ノ特定スル處ノ分割方法及順位ニ從イ賣却セラルベキモノニシテ右法律規定ハ指定ニヨル特定ノ順位ナキトキハ受託會社ノ定ムル所ニ依リ之ヲ爲ス會社ハ今後何時ニテモ本書ニ基キ設定セラレタル抵當權ニ對シ劣順位ノ抵當權者タルコトアルベキ自然人又ハ法人ニシテ其權利ヲ行使スル者ニ對シ茲ニ左ノ如ク明示ス。

會社ハ本抵當權ノ實行又ハ本書規定ニヨル其他ノ權利ノ實行アルトキハ前記工場財團ニ屬スル財

産ヲ總括スル一切ノ權利ヲ拋棄シ解放ス而シテ受託會社或ハ本書抵當權ノ實行又ハ本書ニ依リ設定サレタル信託財産ノ管理ニ付權限ヲ有スル裁判所ハ前記ノ如ク工場財團ヲ一括シ全體トシテ賣却スルノ權利ヲ有スルモノトス會社ハ右賣却ノ場合法律ノ許ス範圍ニ於テ右競賣ニ依リ移轉スル工場財團ノ其部分ノ運轉ニ必要ナル會社ノ有スル權利及認可ヲ買受人ニ有効ニ移轉セシムル爲メ法律又ハ右買受人ノ要求ニ依リ證書ヲ作成シ又ハ其他ノ手續ヲ採ルコトヲ約諾ス。

第四條 右競賣ノ場合法律規定ニ依ル通知ノ外受託會社ハ競賣ヲ行ウ目的場所並ニ賣却セラルル物件品目ノ概要ニ付競賣ヲ行ウ日以前每週一回引續キ四週間亞米利加合衆國紐育州紐育市マンハツタン區ニ於テ發行シ一般ニ公布セラルル日刊新聞紙上及前記期間中少クトモ一回日本ノ官報及前記期間中少クトモ二回日本東京市ニ於テ發行シ會社ノ公告方法トシテ其定款中ニ特定セル新聞紙上ニ公告スルコトニ依リ之ガ通知ヲ爲スベキモノトス。

第五條 工場財團ノ全部又ハ一部ノ競賣完了シタルトキハ受託會社ハ競落人ニ對シ賣却物件ニ關スル一切ノ權利解除ノ證書ヲ作成交付スベシ。

右競賣アリタルトキハ會社ハ賣却物件ニ關スル一切ノ權利利益ヲ喪失シ會社其承繼人又ハ讓受人其他賣却物件ノ全部若クハ其一部ニ付會社ヲ通シ又ハ會社ノ名ニ於テ請求ヲ爲シ又ハ請求スベキ凡テノ者ニ對シ永久ニ拘束力ヲ生スルモノトス。

第六條 右競賣ニ於ケル競落人或ハ其代理人讓受人ハ右競賣ニ適用サルル法律規定ニ從イ代金ヲ支拂イ之ニ對シ受領證ヲ受取リタル後ハ其競賣代金ガ信託事務ノ爲メ或ハ本書規定ノ目的ニ對シ充當セラルルヤ否ヤヲ監視スルノ責任ナク又競賣代金ノ全部又ハ一部ノ紛失充當違イ又ハ不充當ニ對シ如何ナル場合ト雖モ責任ナク又右競落人ハ競賣ノ權限必要ノ有無若クハ適否ニ付取調ヲ爲スノ義務ナキモノトス。

第七條 右競賣アリタル時ハ社債元金ハ支拂期ニ至ラザルモノト雖モ債券又ハ本書中ノ規定ニ係ラズ之ト同時ニ支拂期到達スルモノトス。

第八條 右競賣ノ代金又ハ利得並ニ其當時受託會社ガ本書規定ニ基キ社債權者ノ爲メ保有スル其他ノ金額(第七條ノ規定ニ依ルト否トヲ問ワズ)ハ左ノ如ク充當セラルベキモノトス。

第一 右競賣ノ費用(受託會社其代理人及顧問ニ對スル相當ノ報酬ヲ含ム)及右競賣ニ關聯スル手續ノ費用及受託會社ノ支出シ又ハ負擔シタル費用債務及立替金ニ對スル支拂一切ノ税金賦課若クハ本書ニ依ル抵當權ニ優先スル權利(但シ當該競賣ノ原因タル税金賦課若クハ優先權ヲ除ク)ニ對スル支拂

第二 支拂期ノ到來セル社債元金ノ總額並ニ法律ノ許ス範圍内ニ於テ支拂期後ノ元利金年七歩ノ割合ニ依ル利息ヲ併セ拂渡スコト右代金額ガ支拂ニ充分ナラザル時ハ何等ノ差等ヲ設クルコトナ

ク社債元利金及其利息ニ對シ金額ニ應ジテ平等ニ拂渡ヲ爲スコト但第七章第二條ノ規定ニ準據スルコト

第三 剩餘額アル時ハ會社其承繼人若クハ讓渡人其他之ヲ受領スルノ權限アル者又ハ當該官廳ノ指定スル者ニ對シ之ヲ拂渡スコト。

第九條 右競賣ノ場合ニ於テ其當時法律ノ許ストキハ競落人ハ競買物件ノ代金ノ支拂ノ爲メ債券及滿期後利札ヲ使用シ充當スルコトヲ得ルモノトス(但第七章第二條ノ規定ニ準據スルコト)此場合ニ於テハ買受人ハ本書規定ニ依リ競賣ノ費用、報酬其他ノ支出ヲ該代金ヨリ控除シタル後債券及利札所持人ニ對シ等分ノ配當トシテ該代金中ヨリ拂渡サルベキ金額ト相殺スル爲メ右債券及利札ヲ右競賣ヲ取扱フ吏員又ハ官廳ニ提出スルモノトス而シテ右債券及利札ニ依リ支拂ウベキ金額ガ會社ガ是等ノ債券及利札ニ對シ支拂ウベキ金額ヨリ少額ナル時ハ右代金支拂ヲ受クル權限アル者ノ指圖ニ依リ相殺金額ヲ以テ會社ガ一部辨濟ヲ爲シタルモノトシ其金額ノ支拂證明ノ爲メ右債券及利札上ニ之ガ受領ノ裏書ヲ爲スモノトス。

第十條 會社ニ於テ萬一本書第六章第十七條ニ違反シテ當時存在スル工場財團ノ全部又ハ其大部分ヲ賣却シ讓渡シ又ハ賣却讓渡セントシタルトキハ受託會社ハ直チニ斯ル賣却讓渡ヲ防止スル手續ヲ採ルベク又未然ニ防グコト能ワザリシ時ハ該賣却讓渡ノ代金ヲ社債權者ノ爲メ受託會社ニ對シ支拂フ

シムル様手續ヲ採ルベシ。

第十一條 會社ハ左ノ約諾ヲ爲ス會社ノ不履行ノ場合ニ於テ債券若クハ利札又ハ本書規定ニ基ク權利實行ノ目的ノ爲メ其性質ノ如何ヲ問ワズ受託會社ガ訴訟又ハ其他法律上ノ手續ヲ開始シタル時ハ會社ハ右訴訟其他ノ手續上ノ異議ヲ述ブルコトナク之ニ應訴シ受託會社ガ當然本書ニ基キ有スル權利ニ對シテハ判決言渡ヲ受クベキコトニ同意ス又會社ノ不履行アリタル後訴訟若クハ其他ノ手續開始シタル時ハ若シ法律規定存在スル場合會社ハ受託會社ノ要求ニ依リ當時存在スル工場財團及之ヨリ生ズル收益、賃料及利益ニ關シ當該官廳ノ附與スル權限ヲ有スル管理人ノ選任ニ同意スル是等ノ者ハ第七章第一條第二項ノ規定ニ依リ受託會社ガ行使スル權限ト同様ノ權限ヲ有スルコトヲ得

第十二條 受託會社ハ左記場合ノ一ニ依ルノ外本書規定ノ會社ノ不履行ニ對スル權利ヲ拋棄シ又ハ右不履行ノ效果ヲ免除シ又ハ之ヨリ生ズル責任ニ付和約ヲ爲スコトナシ超特別決議又ハ超特別決議ニ依リ適法ニ選任サレタル代表者ニ依リ指定アリタル場合又ハ (イ)工場財團ノ全部若クハ一部ノ競賣ニ先ダテ本書規定ニ依リ右不履行行爲回復サレタル場合及 (ロ)會社ニ於テハ社債權者ノ爲メ受託會社ニ對シ會社ノ不履行ニ依リ社債權者ノ受ケタル一切ノ損害ヲ賠償シ並ニ元利金支拂ノ不履行ノトキハ其元利金額及滿期後元金ニ對スル利息及法律ノ許ス範圍ニ於テ滿期後利息ニ對シ年七分ノ割合ニ依ル利息ヲ併セ支拂イタル場合及 (ハ)受託會社ノ費用ヲ支拂イ又ハ之ヲ支拂ウニ充分ナル金額ヲ

受託會社ニ供託シタル場合

前記ノ如キ受託會社ノ權利拋棄アリ又ハ右不履行ニ對スル手續ヲ停止シ拋棄シ又ハ受託會社ニ對シ反對ノ決定アリタル時ハ會社ト受託會社及社債權者ハ各自從前ノ地位及權利關係ニ復歸スベキモノトス不履行效果ノ免除ハ爾後ノ不履行ヲ免除スルモノニ非ズ又夫レニヨリテ生ズル權利ニ影響スルコトナシ。

受託會社ハ社債權者集會ニ於ケル超特別決議又ハ之ニ依リ適法ニ選任セラレタル代表者ニ依リ指定サレタル場合若クハ法律規定ニ依リ斯ル指定ガ爲サル場合ノ外社債元利金ノ支拂期ヲ延長シ又ハ其當時存在スル工場財團ヨリ物件ヲ取去ルコトヲ許容スルコトヲ得ズ。

第十三條 會社ハ左ノ如ク約定ス

會社ノ不履行アリ且其効果繼續中ハ前記ノ方法ニ依ル不履行效果ノ免除ナキ限り受託會社ハ權利トシテ即時社債元金ニ付滿期ヲ宣言セズシテ又ハ滿期ヲ宣言シタル上其當時存在スル工場財團及之ヨリ生ズル一切ノ收益、賃料及利益ニ關シ當該官廳ノ附與スル權限ヲ有シ且第七章第一條第二項ノ規定ニ依リ受託會社ガ行使スルト同様ノ權限ヲ有スル管理人ヲ選任スルコトヲ得(但其當時斯ル選任ニ付法律規定アル場合ニ限ル)又會社ノ不履行アリタル後本書ニ依リ設定セラレタル抵當權ノ實行又ハ其執行又ハ之ニ附屬スル手續ノ提起又ハ會社ノ財産營業若クハ收益ニ關シ受託會社又ハ社債

權者ノ有スル權利ヲ實行スル爲メノ其他ノ手續ノ開始アリタル時ハ受託會社ハ權利トシテ前記ノ如ク其當時存在スル工場財團及之ヨリ生ズル一切ノ收益賃料利益ニ關シ當該官廳ガ附與スル權限ヲ有スル管理人ヲ選任スルコトヲ得（但其當時斯ル選任ニ付法律規定アル場合ニ限ル）

第十四條 本書並ニ債券又ハ利札ニ基ク訴訟行爲ハ一切受託會社ニ依リ提起セララルモノニシテ此場合受託會社ハ債券又ハ利札ヲ所有スルコトヲ要セス且辯論又ハ之ニ關スル其他ノ手續ニ際シ之ヲ提出スルコトヲ要セス受託會社ガ訴訟提起又ハ其他ノ手續ヲ爲ス場合ハ受託會社トシテ其名ニ於テ之ヲナシ且判決ハ現存債券及添附利札ノ所持人ノ平等ノ利益ノ爲メニ受クベキモノナリ。

第十五條 社債者及利札所持人各自ノ平等ノ權利ヲ確保シ且訴ノ重複ヲ防グタメ左ノ如ク約定合意ヲ爲ス（本書ニ基キ發行セル一切ノ社債券ハ此條件ニ從ウモノトス）

本書ニ依リ設定サレタル抵當權ノ目的物ヲ強制スル權利ハ一切受託會社ニ歸屬ス。
受託會社ガ會社不履行ニ付通知ヲ受ケ特別決議ニ基キ會社ニ對シ訴訟行爲ヲ採ルコトヲ指圖サレ之ニ要スベキ訴訟費用其他ノ費用負擔ニ對シ相當ノ擔保補償ヲ提供ヲ受ケ且是等ノ通知指圖及補償ヲ提供ヲ受ケタル後六十日間右手續ヲ採ラザルカ又ハ之ヲ爲ス事ヲ拒絕シタル場合ニ非ザレバ社債權者又ハ利札所持人ハ前記抵當權ノ實行ニ對シ受託會社ニ代リ手續ヲ爲シ又ハ手續ヲ爲スコトヲ要求シ又ハ社債權者若クハ利札所持人ノ爲メ手續ヲ爲スベキ代表者ノ選任ヲ申請スルノ權限ナキモノトス。

第十六條 本書中別段ノ定メアル場合ト雖モ受託會社ハ法律ノ許ス範圍ニ於テ社債權者ノ指示又ハ同意ヲクシテ本書ニ基キ設定サレタル抵當權ノ目的物ノ保護保存ヲ爲メ又ハ本書ニ依リ受託會社、社債權者及利札所持人ノ權利ノ保護及實行ノ爲メ有用ト思惟スル訴訟行爲其他ノ手續ヲ爲スコトヲ得

第十七條 本書中規定スル受託會社社債權者又ハ利札所持人ニ對シ附與サレタル救濟方法ハ其他ノ救濟方法ヲ妨グズ且各救濟方法ハ逐次本書規定又ハ現在若クハ將來存在スル他ノ各救濟方法ニ附加シテ爲サルベキモノトス。

第十八條 受託會社、社債權者又ハ利札所持人ニ於テ會社不履行アリタル時其權利ヲ行使スル事ヲ遲延シ又ハ行使セザル場合ト雖モ夫等ノ權利ハ害セラレルコトナク又不履行ノ責ヲ免除シ又ハ默認スルモノニ非ズ本書ニ依リ受託會社社債權者又ハ利札所持人ニ附與サレタル權利及救濟方法ハ隨時夫等ノ者ガ便宜トスル時之ヲ行フコトヲ得。

第十九條 本書ニ規定スル所ノ其明示タルト默示タルト問ワズ本書ノ規定又ハ本書記載ノ約定、條件ニ基ク權利、救濟方法又ハ請求權ハ本契約ノ當事者及社債權者、利札所持人ニシテ附與セララルモノニシテ本書所定ノ約定、合意ハ一切兩當事者及其承繼人、社債權者、利札所持人ノ利益ノ爲ニ

ノミ存スルモノナリ。

第二十條 會社ハ如何ナル時ニ於テモ本書ニ規定スル履行ノ約定及期間ヲ左右スル如キ現在或ハ將來ノ法律ニ依リ其停止又ハ延長ヲ主張シ抗辨シ又ハ如何ナル方法ニ依ルモ之ヲ請求シ之ガ利益ヲ受クルコトナキモノトス又本書規定又ハ當該官廳ノ決定判決又ハ命令ニ基キテ爲サレル競賣ニ先立テ其當時存在スル工場財團ノ全部又ハ一部ノ評價ヲ規定スル如キ現在又ハ將來法律ニ依リ其法律利益ヲ請求シ主張シ之ガ利益ヲ受クルコトナキモノトス又ハ右競賣ノ後ニ於テ將來又ハ今後施行スル法律ニ基ク權利ノ主張又ハ行使ニ依リ右賣却サレタル物件ノ全部又ハ一部ヲ回收スルコトナキモノトス會社ハ茲ニ斯ル法律ノ利益ヲ援用スルコトナキヲ明示シ且本書中受託會社ニ對シ許容サレタル權利ノ行使ヲ妨害シ遅延セシメ又ハ阻害スルコトナク恰モ斯ル法律ノ施行セラレザル場合ノ如ク夫等ノ權利ノ行使ヲ認容スベキコトヲ約諾ス。

第八章 抵当物件ノ解除

第一條 會社ハ工場財團設定ニ當リ須原ノ部ニ付テハ最初須原開閉所ノミヲ該財團中ニ包含セシムル筈ナリシニ誤リテ須原變電所全部(工場財團ノ概説ノ章中ジI項ニ既述セリ)ヲ財團中ニ包含セシメタリ依テ該開閉所ヲ包含セシムル手續完了ノ上財務擔當者ノ承認スル顧問技師ニヨリ證明セラレ

斯ル證明書ヲ受託會社ニ交付シタル場合ハ會社ハ須原開閉所ヲ組成スル部分以外ノ須原變電所所屬一切ノ抵当物件ハ工場財産ヨリ分離スルコトヲ得可シ而シテ受託會社ハ分離ヲナスニ必要ナル一切ノ手續ハ會社ノ費用負擔ニ於テ爲スベキモノトス。

第二條 會社ガ該工場財産ヲ所有スル間ハ何時ニテモ本契約ニ基キ設定セラレル抵當權設定ノ條項ニ從イテ廢棄又ハ磨滅スルニ至ル可キ財團物件中ノ機械附屬品、器具、道具、補充品、如何ナル部分ヲモ會社ノ獨斷ニテ處分シ得ルモノトス受託會社ハ會社ノ要求アル場合ハ上記ノ抵当物件變更ニ同意ヲナシ抵当物件變更ニ必要ナル手續ニ協力ス可キモノトス上記ノ工場財團ヨリ解除シタル物件ヲ處分スルコトニ依リ會社ガ得タル代金ハ新機械器具補充品ノ購入ニ使用スベキモノニシテ受託會社及會社ノ適法ナル行爲ニヨリ此等ハ更ニ工場財團中ニ繰入ル可キモノトス上記代金ノ全部又ハ一部ガ其受領後六ヶ月内ニ新品購入ニ用イラレザル場合ハ受託會社ニ預入ル可シ而シテ受託會社ハ自己ノ行爲ニヨリ解除シタル抵当物件ノ對價ニ關シ規定シタル第八章第四條ノ規定ニ從イテ之ヲ處理ス可キモノトス但此金額ハ本社債ノ償還ニ使用スルコトヲ得ルモ斯ル社債ノ利子支拂ハ會社ヨリ別勘定ニテ支拂ウモノニシテ賣上代金中ヨリ利子支拂ヲナス可カラズ又賣上代金ヲ社債償還ニ使用シタル場合ニ於テモ會社ガ減債基金勘定トシテ支拂ウベキ金額ヲ減ズルコトヲ得ズ會社ノ各營業年度ノ終了後七十五日以内ニ會社ハ受託會社及財務擔當者ニ對シ財務擔當者ノ承認スル顧問技師ニヨリ

正確ナルコトヲ證明シ會社ノ社長及副社長ノ一名ガ署名シタル證明書ヲ以テ (イ)該營業年度内ニ於テ會社ニヨリテ該工場財團ニ更ニ附加シ又之ヨリ分離シタル物件ノ性質、用法、價格 (ロ)分離物件ノ處分金ノ使用方法ニ關シ相當詳細ナル程度ニ説明ス可キモノトス。

第三條 會社ガ工場財團ヲ所有スル間受託會社ハ左記條件ニ從テ會社ノ要求アル時ハ工場財團中ノ物件ヲ抵當權ノ目的ヨリ分離ス可キモノトス。

(イ) 會社ノ取締役及財務擔當者ノ承認スル顧問技師ノ判斷ニヨリ該工場財團ノ運用、保持、使用ニ何等必要又ハ有用ナラザル物件ニシテ且會社ノ業務遂行ニモ不用トナリタル物件ナルコト。

(ロ) 會社ガ財團ヨリ解除セラルベキ物件ヲ賣却又ハ交換シタルカ又ハ賣却交換ヲナス契約ヲ爲シタル後ナル可キコト。

(ハ) 上記ノ賣却交換ニ依リ受取り又ハ受取ルベキ金錢其他對價ハ少クモ解除セラル可キ物件ノ價格ト同等ナル可キコト。

本條ノ規定ニ依リ求メラルル受託會社ノ一切ノ行爲ハ會社ヨリノ書面ヲ以テ請求ス可キモノニシテ會社ハカカル請求ヲ爲スニ當リ下記ノ書面ヲ受託會社ニ提出ス可キモノトス。

(イ) 社長又ハ副社長ノ一名ガ自身證明ノ爲メ署名ヲ附シタル會社ノ取締役會ノ決議録ノ寫、財務擔當者ノ承認シタル顧問技師ノ證明書、上記二種ノ書面ハ解除ヲ求メラルタル物件ガ該工場財團ノ

運用保持使用ニ何等必要又ハ有用ナラズ且會社ノ業務遂行ニモ不用トナリタルコトヲ述べタルモノナルコトヲ要ス。

(ロ) 社長又ハ副社長ノ一名ニヨリ署名セラレタル證明書ニハ次ノ事項ヲ記載ス可キモノトス。

(一) 解除セラル可キ物件ノ表示

(二) 上記ノ物件ノ時價及之レヲ處分シタル時ニ受取り得可キ價格、若シ他ノ金錢以外ノ財産ト交換セラル可キ場合ハ斯ル財産ノ時價

(三) 解除セラル可キ物件ノ解除ハ本條ノ規定ニ從テノミナサルモノナルコトヲ證スル爲メニ必要ナル事項ノ記載

受託會社ガ受取りタル上記ノ決議録及證明書ハ受託會社ニトリ該決議録及證明書ノ記載物件ヲ解除スルニ付本條ノ規定ニヨリ求メラレタル事實證明ノ絶對的證據力ヲ有スルモノトス從ツテ之ニ基キ受託會社ガ解除行爲ヲ爲ス場合ハ善良ナル管理人ノ義務ヲ盡シタル證左トナル可シ然レ共受託會社ノ意嚮如何ニヨリテハ解除物件又ハ交換物件ヲ受託會社ガ相當ト信ズル程度迄會社ノ費用負擔ニ於テ評價人其他ノ方法ニヨリ更ニ取調ブルコトヲ得ルモノトス。

第四條 本書ノ各條項ニ遵テ抵當物件ヲ處分シタル上得タル對價ハ受託會社ニ預入ルルモノトス但第八章第二條ノ規定ニ基キタル處分ニヨリ得タル對價ニシテ該條ニヨリ認容セラレタル方法ニヨリ費

消セラル可キ場合ハ此限りニアラズ。

受託會社ニ預入シタル金額ハ

(イ) 抵當權ノ目的タル該工場財團ニ對シ物件ヲ追加スルコト又ハ之レガ改良、改善、増築追加等ヲ爲シタル費用ノ補充トシテ受託會社ヨリ會社ニ對シ拂戻ヲ爲スコトヲ得。

但シ斯ル改良、改善、増築、追加ノ爲メノ費用ハ大正十四年一月一日以後又ハ受託會社ガ預入ヲ受ケタル日ヨリ以前二ケ年内ニ會社ガ費消シタル費用タルコトヲ條件トス。

(ロ) 受託會社ニ於テ大正二十三年八月一日以後ハ會社ノ書面ニヨリ請求アル場合ハ第四條ノ規定ニ從テ社債償還ニ流用スルコトヲ得。

但此預入金ハ社債元本ノ支拂ニ充當スルモノニシテ決シテ利息ノ支拂ニ流用スルコトヲ許サズ利息ハ會社ニヨリ別勘定ヲ以テ支拂ワル可キモノナリ且右預入金ノ流用ハ如何ナル場合ト雖モ減債基金勘定トシテ會社ガ支拂ウ可キ金額ヲ減少シ得ザルモノトス。

本條(イ)ノ項ノ規定ニ基キ會社ガ拂戻ヲ受クル權限ヲ證スル方法トシテ受託會社ハ(一)財務擔當者ノ承認スル顧問技師ヨリ物件追加、改良、改善、増築ヲ現工場財産ニ對シ會社ガ爲シタル事實並ニカカル追加、改良、改善、増築ノ評價ヲ附シタル證明書(二)上記顧問技師ノ證明書ニ記載スベキ同様ノ事項、會社ガ事實費消シタル金額及費消ノ月日、該物件ニ付如何ナル證明書ニヨルモ嘗テ預入金流

用ヲナシタルコトナキ事實以上三項ヲ記載シ社長又ハ副社長一名ニヨリ署名ヲ附シタル證明書

(三) 上記ノ追加、物件改良、改善、増築ノ物件ハ一切會社ノ所有ニ屬シ本書ニ基キ抵當權ノ目的物トナリ居ルコトヲ受託會社ノ満足スル程度ニ於テ法律顧問ノ意見書ヲ要求スベシ。

本條ニ從テ受託會社ニ預入シタル金額ハ上記ノ方法ニヨリ會社ニ支拂ワレ又ハ流用セラルル迄ハ社債ノ元利金支拂イノ追加擔保トシテ受託會社之ヲ保持ス可キモノトス。

第五條 抵當權ノ目的物中ヨリ解除セラレタルモノト引換ニ會社ガ取得シタル一切ノ財産ハ該抵當權ノ目的物トシテ編入セラル可キモノニシテ會社ハ受託會社ト共ニカカル財産ヲ一番抵當權ノ目的物ト爲スニ必要ナル手續ヲ爲ス可キモノナリ而シテ受託會社ノ満足スル法律顧問ノ意見書ヲ以テ右手續一切ガ上記ノ目的ノ爲メニ適法ニ完了シタルコトヲ受託會社ニ通知ス可シ。

第六條 本書ノ規定ニヨリ處分サレタル物件ノ買受人ハ右代金ノ流用ニ關シ何等ノ責ヲ負ウコトナキモノトス。

第七條 當該官廳ノ命令ニ依リ工場財團ガ第三者ノ占有ニ移リタル場合ニハ本書ニヨリ會社ニ與エラレタル權限ハ受託會社ノ承認ノ下ニ右第三者之ヲ行使シ得ベキモノニシテ受託會社ガ工場財團ノ占有者トナリシ場合ハ受託會社任意ニ上記權限ヲ行使シ得可キモノトス。

第九章 合併及賣渡

第一條 本書第六章第十七條ノ規定ニ適スル場合ニハ會社ハ他ノ法人ヲ合併シ及他ノ法人ノ財産ヲ取得シ又ハ他ノ法人ニ合併セラレ及工場財團ノ所有權ヲ本書及一切ノ追加契約ニ依ル抵當權附ノマヽ包括的ニ他ノ法人ニ賣渡讓渡移轉シ又ハ此等ノ法人ガ更ニ其承繼者タル法人ニ移轉スルコトヲ得但次ノ條項ニ從ウモノトス。

(イ) 合併其他工場財團ノ所有權ノ移轉アリトモ本書ニ基キ設定セラレタル抵當權及受託會社社債權者ノ權利ヲ消滅セシムルコトナキコト。

(ロ) 合併其他工場財團所有權移轉ノ場合ニ抵當權設定契約ハ引續キ有効ナルモノナルコト。

(ハ) 上記ノ如キ合併其他工場財團所有權ノ移轉アリタル場合ニハ其時ニ於ケル未償還社債ノ元利金ノ完全ナル支拂ヲ本書ノ各條項ニ從イテ履行シ其他義務ヲ繼承ス可キコトヲカカル承繼會社ヨリ受託會社ノ承認スル形式ノ書面ヲ以テ明示ス可キコト。

第二條 合併ノ結果會社ノ權利ヲ承繼シタル法人及上記ノ方法ニ依リ工場財團ヲ賣渡讓渡セラレタル法人(即チ上記ノ條件ニ從イ受託會社ノ承認スル形式又ハ其他法律ノ要求スル證書ヲ作成シ且合併又ハ財團移轉ニ付受託會社ノ承認スル書面ヲ作成交付スルコトニヨリ)ハ會社ニ代リテ會社ノ有

スル權利ヲ承繼スルモノニシテ本書ニ依リ會社ニ與エラレタル一切ノ權利ヲ行使シ得可キモノトス。

此場合受託會社ハ法律顧問ノ意見ヲ上記ノ各條項ニ準據シタル絶對證據トシテ採用スルコトヲ得ルモノトス。

受託會社ハ會社ニ與エラレタル上記ノ權利ガ承繼法人ニ移轉シタル結果斯カル承繼法人ガ社債ノ支拂及本書記載ノ各條件ノ履行義務ヲ遂行スベキコトヲ監視ス可シ。

第三條 本書ニ明示的ニ別段ノ定メナキ限り合併又ハ財團ノ讓渡及此等ニ關スル契約書ハ本件ノ工場財團ニ關スルモノ以外ハ斯ル合併會社承繼會社ノ他ノ財産利權ニ對シテハ何等ノ義務ヲ負ワシメザルモノトス然レ共苟クモ本件工場財團ニ關スル限り該合併法人ニ於テ取得シタルモノハ其合併讓渡賣買移轉交換、取換、増築改良其他ノ附加添付ニ依ルト否トヲ問ワズ又ハ財團並ニ之レニ關スル利權ノ維持ノ爲メニ本書ノ規定ニ基キ取得スベキ財産並ニ會社ニヨリ履行スベキ其他ノ契約ノ遂行ノ結果得ラレタルモノタルヲ問ワズ一切ノ財産ハ本書ニ規定スル抵當權ノ目的物トセラレ可キモノナリ。

第四條 本書規定ニ依リ附與サル權利ノ行使以前ニ會社ハ取締役會過半数ノ決議ニ依リ作成サレ受託會社ニ交付サレタル書面ヲ以テ前記ノ如ク會社又ハ其承繼人ニ保留サレタル權利ヲ拋棄スルコト

ヲ得斯ク拋棄サレタル權利ハ消滅スルモノナリ。

第十章 受託會社ニ關スル規定

第一條 受託會社ハ本書ニ所定ノ受託ヲ引受ケ本書ニ基キ設定サレタル抵當權ヲ工場財團上一番抵當權トスル爲メ及該抵當權ニ依リテ擔保サルル社債元利ニ對スル擔保物及追次工場財團ニ繰入ラルル一切ノ擔保物件ニ付受託會社ノ有スル權利ヲ保護スル爲メ法律ノ必要トスル手續ニ從イ本書ヲ提出シ之レニ基キ登記ヲ享ク可シ受託會社ハ其上ニモ擔保保證ト爲ル可キ一切ノ必要ナル證書ヲ作成シ本書ニ基キ設定サレタル抵當權ノ保持繼續ニ必要ナル行爲ヲ爲シ抵當權存在ヲ明カニシ抵當權ノ目的物ノ増加、追補ヲ爲シ其他設定契約ガ遵守サルル様最大ノ努力ヲ爲スベキモノトス。

受託會社ハ會社ガ其工場財團ノ物件ニ對シ附スベキ一切ノ保險ヲ附セシメ又ハ之ヲ繼續セシムベシ而シテ保險會社ノ性質、財政狀態及保險證券ノ約款ヲ取調ベノ上満足スルニ非ザレバ會社ニ對シテ斯ル保險證券ヲ承認スベカラズ。

受託會社ハ會社ノ費用ヲ以テ工場財團物件ノ保持ニ付會社ガ其義務ヲ常ニ遂行セルヤ否ヤヲ確ムル爲メニ必要ナル調査ヲ常ニ爲スベシ。

受託會社ハ常ニ會社トノ間ニ會社ガ本書ノ條項ニ從イ又ハ本書記載ノ工場財團ニ關シ特ニ會社ニ

許容サレタル權利ヲ行使スル爲メニ必要ナル可キ追加契約又ハ其他ノ契約ヲ締結スベキモノトス。

會社ガ本書記載ノ不履行アリシ時ハ受託會社ハ直チニ財務擔當者ニ之ヲ書面ヲ以テ報告スベシ。

第二條 受託會社ハ本書原本一通ヲ在日本東京ノ本店ニ謄本ヲ各其支店ニ備付クベシ該原本及謄本ハ營業時間中何時ニテモ會社ノ社債權者、株主及會社ノ債權者ノ閱覽ニ供スベキモノトス。

受託會社ハ會社ノ社長又ハ副社長ノ一名ガ會社ノ所有スル社債原簿ト相違ナキ旨ノ證明ヲ爲シタル社債原簿ノ謄本ノ交付ヲ受クベシ而シテ原簿ノ記載ニ變更ヲ生ジタル時ハ其都度受託會社ノ謄本ノ其部分ヲモ變更シ置クモノトス。

受託會社ハ社債原簿ノ謄本ヲ其本店ニ置キ社債權者ノ爲ニ營業時間内閱覽ニ供スベシ。

第三條 受託會社ハ社債權者ノ各集會ノ決議録ヲ自ら作成スルカ又ハ他ヲシテ作成セシメ右決議録ノ謄本ハ日本東京ノ受託會社ノ本店及其各地ノ支店ニ備付スベシ。

右謄本ハ營業時間内何時ニテモ會社又ハ社債權者ノ閱覽ニ供スベキモノトス。
受託會社ガ招集シタル社債權者集會ノ決議録原本ハ受託會社ノ本店ニ備付クベシ、此原本ハ營業時間内何時ニテモ會社及社債權者ノ閱覽ニ供スベシ、社債權者集會後受託會社ハ直チニ決議録ノ謄本ヲ其主務役員又ハ秘書役ニ依リ相違ナキ旨ノ證明ヲ受ケタル上財務擔當者ニ交附スベシ。

第四條 受託會社ハ一切ノ通知書、決議録、要求書、同意書、命令書、證明書、報告書、意見書、債

券其他ノ書類、證明ガ該當事者ニ依リテ署名サレ提出セラレタル限り之ヲ真正ノモノトシテ取扱フ事ニ對シ何等過失ノ責任ヲ負フ事ナキモノトス。

本書記載ノ債券ノ證明及交附本書ノ條項ノ下ニ受託會社ノ保持スル金錢ノ支拂又ハ本書記載ノ免除證書ノ作成其他受託會社ニ對スル申請許容等ニ付之ニ對スル條件トシテ本書各條項ニヨリ要求セラレタル決議録、證明書、陳述書、意見書、報告書、命令書及其他ノ書面ハ其記載事項ノ内容ヲ絶對證據トシテ受託會社ニ於テ受入レ得ルモノニシテ是等ノ書面ノ内容ヲ基礎トシテ行動スル限り其内容事實ノミナラズ内容トナレル意見ヲ基礎トスルトモ受託會社ハ善意ノ過失ニシテ萬一此等ノ内容ニ付虚偽不實アリトスルモ何等ノ責任ヲ負ワザルモノトス但斯ル申請ヲ許容シ又ハ申請ニ基ク行爲ヲ爲ス以前ニ受託會社ハ社債未償還總額ノ四分ノ一以上ノ社債權者ニヨリ書面ニヨリ請求アル場合又ハ相當費用擔保ヲ提供シタル社債權者ノ請求アル場合或ハ受託會社ニ於テ必要ト認ムル場合ニ於テハ其適當ト認ムル程度ニ於テ上記ノ事實ニ付更ニ調査取調ヲ爲スコトヲ得ベシ。

若シ受託會社ガ調査ヲ爲サントシ又爲スベキ請求ヲ受ケタル時ハ受託會社自身又ハ代人ヲシテ會社ノ上記事實ニ關スル陳述及之ニ關スル諸帳簿ヲ取調ブルコトヲ得、而シテ調査ノ有無ニ拘ワラズ申請ノ要件トナレル之等ノ諸書類ノ真正正確ナルヲ信ズルニ非ズンバ斯ル申請ヲ許容スベキ何等ノ義務ヲ負ワズ是等ノ調査取調ノ上申請許容ノ決定ヲ爲シタル場合ニ於テモ惡意ナキ限り一切ノ行爲

ニ付責任ナキモノトス。

調査ノ費用ハ會社ノ負擔トシ若シ受託會社ガ立替エタル時ハ其請求ニ依リ返却當時ノ日本銀行ノ當座貸越日歩ノ利率ニヨリ利子ヲ附加シテ支拂ウベシ若シ會社ガ之ヲ支拂ワザル時ハ其立替費用ハ債券及利札ニ優先シテ本書ニ依ル抵當權ニ依リ擔保セラルベキモノトス。

本書ニ基ク信託事務ノ遂行中受託會社ニ於テ或行爲ヲ爲スニ付或ハ事實證明ヲ爲サシムル必要アル場合ニ其事實ハ會社ノ社長又ハ副社長ノ一名ガ署名シ受託會社ニ交付シタル證明書ニヨリテ絶對的ニ證明サレタルモノト看做スコトヲ得(本書ニ依リ特ニ定メタル他ノ證據ヲ要求スル場合ヲ除ク)但自己ノ任意ニテ適當ナル追加證據ヲ要求スルコトヲ得

第五條 會社ハ常ニ請求ニ從イ受託會社ニ對シ其ノ信託事務ニ對スル擔當ノ報酬及信託事務處理上其權利義務遂行ニ關シ生ズル相當ノ費用法律顧問ノ報酬其他ノ立替費又ハ其代理人、代理店、雇人ノ費用ヲ支拂ウ可キモノトス。

會社ガ斯ル支拂ヲ遅延シタル場合本書ニヨリ設定サレタル抵當權ニヨリ社債ノ元利金支拂ニ優先シテ保護ヲ受ク可シ。

第六條 受託會社ハ會社ヨリ預リタル金額ニ對シテハ受託會社ガ一般同一性質ノ預金ニ附スルト同率ノ利子ヲ支拂ウ可シ。

第七條 受託會社ハ受託者トシテノ權利義務ガ本書ノ規定ニヨリ生ズルト法律ノ効果トシテ生ズルト
ヲ問フズ自身之レヲ爲スカ又ハ代理人、代理店、雇人ニヨリテ之ヲ遂行シ得ルモノトス。

社債權者集會ノ決議録又ハ其臆本又ハ其選任ニ係ル代表者タルコトヲ證スベキ書面ヲ該集會ヲ指
揮セシ役員又ハ秘書ヨリ提出セラレザルカ或ハ該集會ガ適法ニ招集開會決議ヲ爲シ又ハ代表者ガ適
法ニ選任セラレタルコトヲ證スベキ其他ノ證據ヲ提供セラレザル場合ニハ社債權者集會決議又ハ其
選任ニ依ル代表ノ指揮ニ受託會社ハ服ス可キ義務ナキモノトス。

第八條 次ノ場合ニ於テハ受託會社ハ本書ニヨリ定メラレタル信託事務ヲ辭任スルコトヲ得

(イ) 法律ノ規定ニ從イ己ムコトヲ得ザル事由アリ主務官廳ノ許可ヲ受ケタル時

(ロ) 會社及財務擔當者ノ同意スル承繼會社ヲ定メ書面ヲ以テ會社及財務擔當者ニ承繼會社ノ商號及
事務承繼ノ効力發生ノ時日ヲ通告シ且斯ル事實ヲ承繼ノ日時前少クトモ三十日以内ニ三週間連續
シテ各週少クトモ一回米國紐育市マンハツタン區ニテ發行シ一般ニ公布スル日刊新聞ニ又該三十
日ノ期間内ニ日本ノ官報ニ一回公告スベキモノトス右承繼ハ公告ニヨリ定メラレタル日ニ於テ承
繼ノ効力ヲ生ズ但承繼會社ガ第十章第九條ノ規定ニヨリ承繼ヲ承諾セザル場合ハ此限ニアラズ又
承繼ノ効力ヲ生ズルニハ其他法律ニヨリ定メラレタル公告ヲ爲スコトヲ要ス受託會社ハ其義務ニ
違反シ又ハ不適任ト認メラルル場合其他法律ニ規定スル正當ナル事由アル場合ニハ解任セララル

コトアルベシ。

第九條 選任セラレタル新受託會社ハ前受託會社及會社トノ間ニ其ノ選任ヲ承諾シ本書ニ規定セル一
切ノ權利義務ヲ承繼スベキ旨ノ契約書ヲ作成シ其ノ臆本ヲ財務擔當者ニ交付スベシ新受託會社ハ何
等別段ノ行爲ヲ要セズシテ當然最初ヨリ本書ニ受託會社トシテ記載セラレ居ルト同様ニ前受託會社
ノ有セシ一切ノ工場財團ニ對スル抵當權其他信託ニ關スル一切ノ權利義務ヲ承繼ス然レ共辭任スル
受託會社ハ會社又ハ財務擔當者又ハ承繼スベキ受託會社ノ書面ニヨル要求アラバ前受託會社トシテ
工場財團ニ關スル權利利益及其他一切ノ權利利益ノ承繼ヲ更ニ明確ナラシムル様證書ヲ作成シ又ハ
其他ノ必要ナル行爲ヲ爲ス可シ前受託會社ハ新受託會社ニ受託者トシテ所持セル一切ノ金錢財産ヲ
引渡ス可シ又若シ新受託會社ガ承繼スベキ權利義務ヲ更ニ明確ニスル爲メ會社ヨリ證書ヲ受クルコ
トヲ必要トスル時ハ會社ハ此等ノ諸證書ヲ作成交付ス可シ。

第十條 特ニ反對ノ法律規定ナキ限り受託會社ヲ合併スル法人又ハ受託會社ト新設合併スル法人ニシ
テ會社及財務擔當者ノ承認アリ且其店舗ヲ東京市ニ有スル場合ニハ本書ニ基キ承認受託會社ト爲リ
得可キモノニシテ本契約ノ當事者間之ガ爲メ特ニ契約ヲ爲シ又ハ行爲ヲ爲スヲ要セズ債券ガ受託會
社ニヨリ證明セラレタル後未ダ交付ヲ了セザル場合ニハ承繼受託會社ハ前受託會社ノ證明ヲ使用シ
其證明アル債券ヲ立會署名者ニ交付ス可シ而シテ又債券ノ一部ニ未ダ證明ナクシテ承繼ガ起リシ場

合ハ新受託會社ハ前受託會社又ハ自己ノ名義ノ何レニテモ之ヲ證明シ得此證明ハ本書又ハ債券中ニ受託會社ノ證明トシテ規定シタルト同様ノ効力ヲ有ス。

第十一章 立會署名者ニ關スル規定

第一條 立會署名者ハ工場財團及之ニ關スル會社ノ權利書ニ基ク抵當權設定並ニ立會署名ノ上交附アリタル債券ノ處分及社債拂込金ノ使途ニ關シ何等ノ義務責任ヲ負ウコトナキモノトス。

立會署名者ハ授權サレタル權限ヲ自身又ハ代理人、代理店雇人ニ依リテ行使スルコトヲ得但此等ノ選任使用ニ付相當ノ注意ヲ怠ラザル限リ夫等ノ者ノ故意過失ニ對シ責任ナシ但自己ノ故意ニ基ク場合ハ此ノ限リニアラズ。

立會署名者ハ債券取調べニ際シ其提出ヲ求メラレタル社債權者ガ債券ヲ提出シ又債權者タルヤ否ヤニ付爭アル場合ニハ其權利ガ確定サレタル場合ニアラズンバ何人ヲモ社債權者トシテ認ムル義務ナキモノトス。

立會署名者ハ當該當事者ニヨリ署名ノ上提出交付セラレタル通告書、決議錄、要求書、命令書、證明書、債券、其ノ他ノ書類ニシテ眞正ナルモノト信ジタルモノヲ基礎トシテ行動スル限リハ自己ノ行爲ニ付何等ノ責任アルコトナシ立會署名者ハ其法律顧問ノ意見ニ從イ善意ニ行動スル限リ其行

爲ニ付何等ノ過失責任ナキモノトス本書ノ條項ニ基キ債券ノ立會署名及交付其他ノ請求ヲ受ケタル時ハ本書ノ條項ニヨリ之ニ應ズル要件トシテ提出セシムベキ決議錄、證明書、命令書、其ノ他ノ書面ハ絶對的證據トシテ立會署名者ニヨリ信憑セラル可キモノニシテ立會署名者ガ善意ニ於テ此等ヲ基礎トシテ行爲スル限リ何等過失責任ナキモノトス。

立會署名者ハ右請求ニ應ズルニ先ダテ該書類ノ記載事實ヲ更ニ取調ブル義務ナシ然レドモ適當ト認ムル場合ハ進デ調査ヲ爲スコトヲ妨グズ調査ヲ爲シタル後請求ニ應ズル場合ニ於テモ善意ニ爲シタル一切ノ行爲ニ付テハ何等ノ責任ヲ負ワズ右調査ニ要シタル相當ノ費用ハ請求アリ次第六歩ノ利子ヲ附シ會社ヨリ返却スベキモノニシテ其返却アル迄社債元利ニ優先シテ抵當權ニヨリ保護サルルモノトス。

第二條 立會署名者ノ請求アリ次第會社ハ本書ニ基キ立會署名者ガ爲シタル一切ノ仕事ニ對シ相當額ノ報酬及費用、法律顧問ノ報酬其他立替費又ハ代理人、代理店雇人ニヨリテ其權利義務遂行上要シタル費用ヲ支拂ウモノトス。

會社ガ之等ノ費用支拂遲滞セバ抵當權ニヨリ社債元利ニ優先シテ保護ヲ受クベシ。

第三條 本書ニヨル立會署名者ノ權利義務ヲ執行スルニ際シ其行爲以前ニ或ル事實ノ證明ヲ必要ト認ムル時ニモ會社社長又ハ副社長ノ一名ニヨリ其證明ノ爲メ署名シ交付セラレタル證明書ヲ以テ絶對

證據ト爲スコトヲ得ベク從テ善意ニ行動スル限り右證明書ヲ基礎トシテ爲シタル行爲ハ絶對無過失ナルモノトス。

然レ共立會署名者ノ撰擇ニヨリ之等ノ事實事項ニ關シテ他ノ證據ヲ參照シ或ハ相當程度ノ追加證據ヲ要求シ得可シ。

第四條 立會署名者又ハ其後選任セラレタル承繼人ハ何時ニテモ會社ニ通告シ同時ニ辭任効力ノ發生スル日時ヲ定メテ之レヲ米國紐育市マンハツタン區ニテ發行スル一般ニ公布セララルル日刊新聞紙ニ引續キ三週間一週一回ヅツ公告ヲナシテ辭任スルコトヲ得

辭任ハ承繼立會署名者ガ豫メ選任サレザル場合ハ公告ニ定メラレタル日ニ於テ其効力ヲ生ズ豫メ選任セラレタル場合ハ其選任及承諾ニ因リ辭任ノ効力ヲ生ズ。

第五條 立會署名者其承繼人ガ辭任シ或ハ行爲無能力トナリ或ハ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合或ハ立會署名者又ハ其承繼人ノ若クハ其財産ノ管理人ガ選任セララルル場合又ハ紐育州銀行監督官其他ノ官公吏ガ立會署名者、其承繼人及其財産又ハ業務ヲ監督支配スルニ至ル場合ハ會社ハ其重役ノ命ニ基キ擔當役員ノ作成ニ係ル書面ヲ以テ承繼人ヲ選任ス。

會社ガ右承繼人ヲ選任シタル場合ハ亞米利加合衆國紐育州紐育市ニ於テ公判セララルル日刊新聞ニ一週一回引續キ二週間公告スベモノトス。

(イ) 立會署名者承繼ニ關スル本條ノ各項ニ基キ選任セララルベキ立會署名者ハ紐育州法ニ依リ設立サレタル信託會社ニシテ前記マンハツタン區ニ於テ業務ヲ爲スモノ(或ハ同所ニ於テ業務ヲ爲ス全米銀行組合或ハ紐育州銀行組合)ニシテ通常行ワルル慣習條件ノ下ニ立會署名者ノ業務ヲ行ウニ適當ナル者ニ限ル。

第六條 立會署名者ヲ合併シ又ハコレト新設合併スベキ新會社ニシテマンハツタン區ニ事務所ヲ有スル者ナルトキハ右當事者ノ特別ナル書面又ハ行爲ヲ要セズ當然承繼立會署名者タルベキモノトス債券ガ立會署名サレタル後交付未了ノモノアルトキハ立會署名者ノ承繼人ハ前任者ノ立會署名ノ儘之レヲ交付スルコトヲ得、債券ガ署名未了ノモノアルトキト立會署名者ノ承繼人ハ前任者又ハ自己ノ立會署名ノ何レニテモ使用スルコトヲ得右何レノ場合タルヲ問ワズ右立會署名ハ社債券又ハ本書規定ニ依ル立會署名者ノ署名タルノ効力ヲ有ス。

第十二章 社債權者ノ集會、行爲債券ノ所持及表現ノ資格

第一條 法律ニ別段ノ規定アル場合ノ外本書ノ規定又ハ法律ノ規定ニ基キ開カルベキ社債權者集會ハ左記方法ニヨリ招集開催シ又其議決權ノ行使其他ノ手續ハ左記ノ方法ニ從ウ可キモノトス。

(イ) 集會ハ總テ亞米利加合衆國紐育州紐育市マンハツタン區立會署名者本店ニ於テ開催スルモノト

ス。

(向) 集會ハ受託會社テイロン・リード・エント・コンパニー(會社社債全額ノ引受者)若クハ其承繼人又ハ其當時殘存スル社債總額ノ十分ノ一以上ニ當ル社債權者之レヲ招集スルコトヲ得

(ハ) 集會ハ集會招集者ノ氏名ヲ以テ社債權者ニ通知シテ之レヲ招集ス右通知ニハ集會ノ目的及場所集會ノ目的タル事項ノ概要集會招集ノ理由、其當時ノ法律ニ依ル社債權者ノ議決權行使ニ必要ナル債券供託ニ關スル條件ヲ掲載ス可シ右通知ハ少クトモ一週一回引續キ三週間前記マンハツタン區ニ於テ公刊セラルル日刊新聞及前記期間中少クトモ一回日本官報ニ公告シテ之ヲ爲ス可シ尙集會日ヨリ少クトモ三週間前ニ受託會社及財務擔當者ニ對シ通知ヲ發シ又會社ノ出席ヲ求ムル時ハ會社ニ對シ同様ノ通知ヲ爲ス可シ。

(ニ) 右集會ニ於ケル議決權ハ債券額面五百弗ニ付一箇トス右議決權ノ行使ハ社債權者自ラ爲シ又ハ書面ヲ以テ若クハ適法ノ委任狀ニヨリ代理人ヲシテ爲サシムルコトヲ得前記書類作成ノ事實及日附ハ公證人又ハ其他ノ吏員ニシテ證書ヲ認證スル權限ヲ有スル者ガ書類ニ署名シテ其作成ノ事實ヲ認證シタル旨ノ證明書又ハ右作成ニ對スル立會人ノ宣誓陳述書ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ得。

(ホ) 集會ハ過半數ノ議決ヲ以テ隨時之ヲ延長スルコトヲ得其再招集ノ通知ハ之ヲ要セズ。

(ヘ) テイロン・リード・エント・コンパニー(會社社債ノ全額ノ引受者)又ハ其承繼人ハ右集會ノ臨時會長トシテ行動スル者ヲ指名スルコトヲ得集會開催サルマデハ議決權行使者ノ資格委任狀其他ノ證書ノ効力並ニ集會開催ニ關シ生ズル一切ノ問題ニ關シ處理サル可キ手續ニ關シ右臨時會長ノ取極メタル事項ハ絶對的ノモノトス但右取極メハ法律又ハ本書ノ規定ニ違反スルコトヲ得ズ。

(ト) 集會ニ於テ議長及秘書役ヲ選任スルモノトス而シテ右集會ニ於テ爲サレタル行爲又ハ手續ハ右議長又ハ秘書役ガ書面ヲ以テ之ヲ證明シタル時ハ本書記載ノ一切ノ目的ノ爲メ有効ナルモノトス。

(チ) 適法ニ招集開催サレタル集會ニ於テ本書又ハ法律ノ規定ニ從ウ議決權ヲ以テ決議サレタル事項又ハ行爲ハ各債券及利札所持人(其者ガ自ラ集會ニ出席シタルト又ハ代理人ヲシテ出席セシメタルト議決權ヲ行使シタルト否トヲ問ワズ)ニ對シ拘束力アリ且絶對的ノモノトス。

第二條 會社ハ受託會社又ハ財務擔當者ノ招集シタル集會ノ招集又ハ開催ニ關スル一切ノ費用ヲ支拂ウベシ。

第三條 本書規定ニ關シ受託會社ニ對スル請求又ハ要求ニ付社債權者ニ於テ書面ヲ作成スル場合ニ於テハ同一文言ノ同様書式ニ依ル證書ヲ以テ爲スコトヲ得、且社債權者自ラ又ハ適法ナル委任狀ニヨリ代理人之ヲ作成スルコトヲ得右請求ハ要求ノ書面ノ作成委任狀又ハ債券ノ所持ヲ證スル書面(社

債權者集會ニ於ル議決權行使者ノ資格ニテスルモノヲ除ク）ニシテ左記ノ方法ニ依リ作成サレタルトキハ其ノ目的ノ爲メ有効ナルモノニシテ受託會社ガ右請求、要求ニ基キ行爲ヲ爲スニ付絶對的ノモノナリ即チ

(イ) 右請求書又ハ要求書作成ノ事實及日附ヲ公證人又ハ其他證書認證ノ權限アル吏員ニ於テ右書類ニ署名シタル者ガ其ノ作成ノ事實ヲ認證シタル旨ノ證明書又ハ右作成ニ對スル立會人ノ宣誓陳述書ヲ以テ證明スル場合

(ロ) 債券所持ノ事實、其金額、債券ノ記號番號及右所持ノ日附ガ其債券ヲ受託會社ニ呈示スルコトニ依リ又ハ受託會社ガ信賴スルニ足ルト認ムル信託會社、銀行、銀行業者又ハ其他ノ供託取扱人ノ作成ニ係ル證明書ニシテ其ノ中ニ記載ノ日ニ於テ其ノ中ニ記載ノ記號番號ヲ有スル債券ノ供託アリタル旨ヲ證スル書面ニ依リ證明サルル場合受託會社ニ對シ之ニ反スル通知書ノ送達アル迄ハ右所持ノ事實ヲ認ムルモノトス。

第十三章 不履行前ニ於ケル工場財團及物件解除約款

第一條 第七章第一條ニ特定セル不履行ノ効果發生スル迄ハ會社其承繼人及讓受人ハ其追次附加シタル一切ノ物件ヲ包含スル工場財團ヲ所有シ其全部及各部並ニ之ニ伴ウ利權ト共ニ支配シ運轉シ使用

收益シ且之ヨリ生ズル又ハ之ニ關スル會社ノ營業ヨリ生ズル利潤收入及利益ヲ取立テ受領シ使用分配スルコトヲ得

第二條 本社債ガ滿期其他本書ノ規定スル處ニ依リ支拂期トナリタルトキハ會社ハ其當時存スル債券及利札ニ對シ支拂期トナリタル元利金ヲ完全ニ拂渡シ又ハ拂渡サシムベシ。

斯ル場合ニ於テ會社ガ右元利金支拂ノ資金トシテ元利金ノ支拂額全部ヲ財務擔者者ニ供託スルコトニ依リ之ガ準備ヲ爲シタル場合又ハ會社ニ於テ大正三十三年二月一日及其以後大正三十三年八月一日以前何時ニテモ（但會社ニ於テ不履行ナキコトガ受託會社ニ明ナル限り）右元利金支拂ノ資金トシテ其當時存スル社債ノ元金金額並ニ大正三十三年八月一日拂渡期トナル利息金額ヲ併セ財務擔當者ニ供託シタル場合右各場合ニ於テ會社ガ本書規定ニ基キ會社ニ依リ支拂ワルベキ其他一切ノ額ヲ支拂イ又ハ支拂ワシメ且本書規定ノ趣旨及意義ニ從イ會社ニ依リ履行サルルコトヲ必要トスル一切ノ事項ヲ完全ニ履行スル限リ本書ニ基キ抵當權ノ目的ト爲リタル一切ノ財産及權利ニ付抵當權ハ解除サルベキモノニシテ之ニ付受託會社ノ有スル權利ハ消滅シ右各場合ニ於テ受託會社ハ會社ノ要求ニ應ジ會社ノ費用ヲ以テ直チニ本抵當債權ノ満足ヲ得タルコトノ記録ヲ作成シ且會社其承繼人又ハ讓受人ニ對シ其當時受託會社ガ所有セル一切ノ動産並ニ本書規定ニ基キ所持セル一切ノ金員ヲ引渡スベキモノトス本條ノ規定ニ基キ財務擔當者ニ供託サレタル金員ハ拂渡期ニ於テ債券及利札ニ對

スル支拂ニ充當サルベキモノトス。

第三條 會社ニ於テ大正二十三年二月一日以後何時ニテモ其當時殘存スル社債全額ヲ償還スルニ必要ナル金額並ニ利息額ヲ信託資金トシテ財務擔當者ニ供託シ右會社債償還ノ通知ヲ第四章ノ規定スル公告方法ニ依リ爲シタルコトノ證據又ハ右社債償還ノ當籤及前記公告方法ニ依ル償還通知ヲ爲スコトニ對シ財務擔當者ニ満足ナル準備ヲ完了シタルコトノ證據ヲ受託會社及財務擔當者ニ提出シ受託會社及財務擔當者ニ對シ一切ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ社債ハ最早本書ノ目的ノ爲メ存在セザルモノト看做サレ且本書ニ基キ抵當權ノ目的トナリタル一切ノ財産及權利ニ付右抵當權ハ解除セラルベキモノニシテ之ニ付受託會社ノ有スル權利ハ消滅シ受託會社ハ會社ノ要求ニ應ジ會社ノ費用ヲ以テ直チニ本抵當債權ノ満足ヲ得タルコトノ記錄ヲ作成シ且會社其承繼人及讓渡人ニ對シ其當時受託會社ガ所有セル一切ノ動産並ニ本書規定ニ基キ所持セル一切ノ金員ヲ引渡スベキモノトス財務擔當者ニ供託サレタル右金員ハ本書規定ニ基キ次ノ利息支拂日ニ於テ利息ト共ニ社債ノ償還ニ充サルベキモノナリ。

第四條 如何ナル場合ト雖モ會社ニ於テ社債ノ償還又ハ支拂若クハ利息ノ支拂ノ爲メ財務擔當者ニ供託シタル金員ハ之ヲ以テ支拂ワルベキ債券又ハ利札ノ所持人ノ受託者トシテノ財務擔當者ニ對シ信託的ニ讓渡サレタルモノナリ(但社債償還ノ爲メ供託サレタル金員ハ第四章第三條及第五章第四條

ノ規定ニ從ウ)而シテ會社ハ右供託セル金員ニ付何等權利ヲ有セザルモノトス但右金員ニ對シテハ財務擔當者ハ其ノ承認利率ニヨル利息ヲ會社ニ支拂ウモノトス。

第五條 其當時存スル社債全部ガ拂渡期トナリタル日(滿期タルト抽籤ニヨル償還日タルトヲ問ハズ)以後十箇年問前述ノ方法ニヨリ支拂ノ爲メ債券ノ呈示ナキ又ハ前ニ規定セル拂渡期ニアル社債ノ元利金ノ支拂ノ爲メ財務擔當者ニ供託セル金額ニ付社債權者ヨリ請求ナキトキハ財務擔當者ハ會社ノ書面ニヨル指圖ニ從イ會社ニ對シ右供託全部ヲ拂戻スモノトス但財務擔當者ハ右拂戻ノ要求アル迄會社ノ費用ヲ以テ右金額ニ付支拂請求ナカリシ旨及之ニ特定スル日以後之ヲ會社ニ拂戻スベキ旨ヲ一週間一回連續的ニ四週間亞米利加合衆國紐育州紐育市マンハツタン區ニ於テ發行スル一般ニ公布サルル日刊新聞及右期間少クトモ一回日本官報ニ公告シテ之ガ通知ヲ爲スコトヲ得會社ノ社長又ハ財務擔當者ガ適當ト認ムル會社ノ其他ノ役員ノ作成ニ係ル證明書ニシテ其中ニ特記セル債券及利札ハ支拂ノ爲メノ呈示ナカリシ旨ヲ記載シタルモノハ右事項ノ充分ナル證據ト看做サレ財務擔當者ハ本條ノ規定ニヨリ附與サレタル權限ニ基キ行爲スルコトヲ得ルモノトス。

社債權者ハ會社又ハ財務擔當者ニ對シ前記供託金額ニ對スル利息ヲ請求スル事ヲ得ズ。

第十四章 日米兩國戰時狀態ニ於テ適用セラル可キ條項

第一條 會社ハ日米兩國戰爭開始ニ場合モ明カニ法律ニヨリ禁止セラレザル限リ本書中ニ規定セル條項ニ從テ紐育ノ財務擔當者ニ對シ支拂ヲ繼續シ本書中規定セル其他ノ財務擔當者ニ對シナス可キ事項ヲ履行ス可キトヲ約諾ス。

第二條 日米開戰ノ爲メ財務擔當者ニ對スル支拂イノ一部又ハ全部又ハ本書中ノ條項ノ一部又ハ全部ガ法律ノ禁止ノ爲メ或ハ事實上履行不能トナリシ場合ハ英國ガ中立ナル場合ニハ日米戰爭ノ爲メ法律上又ハ事實上履行不能狀態繼續スル限リジエト・ヘンリー・シユレトター・エンド・コンパニーハ財務擔當者ノ代リニ本書ノ各條項ニ記入セラレタルト同様ニ一切ノ支拂イ及其他ノ義務ハ該ジエト・ヘンリー・シユレトター・エンド・コンパニーニ對シ履行スベキモノトス。

斯ル場合ニハジエト・ヘンリー・シユレトター・エンド・コンパニーハ財務擔當者ニ代リ依然本書中ニ財務擔當者ナル用語アル所ニジエト・ヘンリー・シユレトター・エンド・コンパニート記載シアルト同様ニ行爲スルモノナリ。

本章本條ノ條項ニヨリジエト・ヘンリー・シユレトター・エンド・コンパニーニ對スル一切ノ支拂ハ英國貨幣ニ依ルベキモノニシテ財務擔當者ニ對シ米貨ヲ以テ支拂ワル可キ金額ハ英貨壹磅四弗八六六五ノ割合ノ換算ニヨリ英貨ヲ以テ支拂ウ可キモノトス。

第三條 日米戰時中ノ一切ノ社債權者集會ハ英國ガ中立ナル場合ハ英國倫敦ノジエト・ヘンリー・シユレトター・エンド・コンパニーノ本店ニ於テ開催セラレ可キモノトス。

第十五章 雜 則

第一條 本書ニ記載サレタル契約ノ各條項ハ其明示タルト默示タルトヲ問ワズ會社並ニ其承繼人ヲ拘束スルモノニシテ現在及將來ノ社債權者ノ全部及一部ノタメニ共同ニ同一ノ順位ニ於テ利益保障トナルモノナリ而テ債券ノ發行賣買又ハ取引ノ前後ニヨリテ或ル一部ノ社債權者ガ他ノ社債權者ニ對シ何等優先的又ハ區別的待遇ヲ受クルモノニアラズ。

第二條 會社ハ財務擔當者ニ社債ノ爲メ又ハ減債資金勘定ノ爲メ預入レタル以外ノ金錢ヲ以テ買入レテ銷却ヲ爲スコトヲ得。

然レ共斯ル買入銷却ハ如何ナル場合ニモ第五章第二條ニ規定セル減債基金勘定ニ支拂ワル可キ金額ヲ減少セシムルコトナシ會社ハ何時ニテモ買入レタル債券ヲ立會署名者ニ交付スルコトヲ得立會署名者ハ斯ル債券ヲ其利札ト共ニ抹消シタル上之ヲ受託會社ニ交付スベシ受託會社ハ會社ノ書面ニ依ル要求ニ應ジ右抹消債券ヲ會社ニ交付ス會社ニヨリ買入レラレタル抹消債券ハ再度發行セラレザ

ルモノトス。

第三條 會社ハ財務擔當者ニ預入レタル一切ノ金錢ニ對シ該財務擔當者ガ同一性質ノ預金ニ對シ支拂
ウ利率ノ利息ヲ附セシムル權利ヲ有ス。

第四條 本書中ノ何レノ條項ニ付テモ亦債券ノ作成發行使用ニ付テモ「會社」「大同電力株式會社」又
ハ「グレート・コンソリデーテツト・エレクトリック・パワー・コンパニー・リミテツト」ナル名
稱ハ單ニ本契約ノ一方ノ當事者ノミナラズ合併又ハ日本法律ニ基キ其ノ承繼者トナリシ法人又ハ合
併ヲ行イテ該工場財團ヲ第九章ノ記載ニ從イ完全ニ取得シタル一切ノ法人ヲモ意味スルモノナリ斯
ル承繼者タル法人ハ大同電力株式會社ガ自己ノ名義ニ於テ有シ得ベキ權利ヲ享有シ又ハ行使シ得ル
モノトス。

第五條 會社ニ對シ又ハ社債ノ元利ニ關スル通告、呈示、催告ハ債券又ハ利札所持人ニヨリテ爲サル
ル場合ハ日本東京ノ會社ノ本店米國紐育市マンハツタン區ノデイロン・リード・エンド・コンパニー
ノ本店又ハ英國倫敦ノジェー・ヘンリー・シユレーダー・エンド・コンパニー本店ニ對シ爲スコト
ヲ得然レ共債券又ハ其利札ノ所持人以外ノ者ノ爲ス通告呈示、催告ハ會社本店ニ對シテノミ爲シ得
ルモノトス、受託會社ニ對シ爲サル可キ一切ノ通告催告ハ如何ナル場合ニモ東京市ノ受託會社ニ對
シ爲スベキモノトス。

本書ノ條項ニ基キ財務擔當者ニ對シ爲ス可キ支拂ハ米國紐育市マンハツタン區、デイロン・リ
ド・エンド・コンパニーノ本店ニ於テ履行ス可キモノナリ又本書ノ條項ニ基キジェー・ヘンリー・
シユレーダー・エンド・コンパニーニ對シ爲スベキ支拂ハ英國倫敦ノジェー・ヘンリー・シユレー
ダー・エンド・コンパニーノ本店ニ於テ履行スベシ財務擔當者ニ對シ爲ス可キ通告報告、其他ノ書
面ハ皆米國紐育市マンハツタン區ノ財務擔當者ノ本店ニ於テ交付スベキモノナリ。

第六條 「會社ノ命ニヨリ」又ハ「會社ノ要求ニヨリ」ナル文字ガ本書中ニ使用セラレタル時ハ如何
ナル場合ニテモ(特別段ノ明記ナキ限り)會社ノ社長或ハ副社長一名ニヨリ署名セラレタル書面
又ハ電報ニヨル命令要求ヲ意味ス而シテ本書ノ條項ニ依リ會社ニ對シ金錢ヲ支拂イ債券ヲ交付スル
ハ上記ノ書面又ハ電報ニヨル命令、要求ヲ待ツテノミ爲サル可キモノトス尙本書ノ用語ヲ明カニス
ル爲メニ

(イ) 「財務擔當者」トハデイロン・リード・エンド・コンパニーヲ指稱ス。
(ロ) 「デイロン・リード・コンパニー」トハ單ニ既ニ記載セシ該株式合資組合ノミナラズ其ノ一切
ノ承繼人ヲモ指稱ス。

(ハ) 「ジェー・ヘンリー・シユレーダー・エンド・コンパニー」トハ單ニ上記ノジェー・ヘンリー・
シユレーダー・エンド・コンパニーノミナラズ其ノ承繼者ヲモ指稱シ承繼者ガ他商會又ハ他法人ナ

殊ニ反對ノ意思表示ナキ限り本書中ニ用イアル「受託會社」ナル文字ハ其原受託會社タルト其承繼者トナレル受託會社タルトヲ問フズ時々ノ受託會社ヲ意味シ、「立會署名者」トハ原立會署名者タルト其ノ承繼者タルトヲ問フズ其ノ時々ノ立會署名者ヲ意味ス。

「利札」トハ債券ニ附シタル利札ヲ指シ、利札債券「所持人」ナル文字ハ特別段ノ定ナキ限り單數ニモ複數ニモ用イラレ社債權者ニ關シテ「人」ナル文字アル時ハ債券ヲ所持スル組合、法人ヲモ包含ス。

第七條 本書ノ條項ニ基キ爲サルル「書面」ニヨル要求、通知、承認、拋棄、指圖、希望、指名ハ、皆會社ノ社長、又ハ副社長ノ一名ニヨリ作成サレアルトキハ完全ニ爲サレタモノト推定ス可シ。

第八條 本書ハ英文ヲ以テ締結セラレ日本譯文ヲ之ニ添付シテ登記所ニ提出シ第六章第六條ノ規定ノ如ク抵當權設定登記ヲ爲ス可キモノトス。

第九條 法律ノ許容スル限り日本ノ内外ニ於テ本書記載事項ノ意味効力ハ英文ニヨル可キモノトス。

本書契約ノ締結ノ證據トシテ大同電力株式會社ハ株主總會及取締役會ノ命ニヨリ社長ニヨリテ社名ヲ以テ又秘書役或ハ副秘書役ノ一名ニヨリ會社印章ヲ捺捺シ株式會社日本興業銀行ノ重役會ノ決

議ニ基キ總裁ニヨリ銀行ノ名ニ於テ副總裁ニヨリ行印ヲ捺捺シ以テ上記ノ日附ヨリ効力ヲ證スル證書トシテ大正十三年九月十五日日本東京ニ於テ作成締結ス。

大同電力株式會社(ダレート・コンソリテテッド・エレクトリック・パワー・カンパニー・リミテッド)

取締役社長 福 澤 桃 介

右社印ヲ證明ス

秘書役 師 尾 誠 治

署名立會證人 山 本 俊 麿

株式會社日本興業銀行(ゼ・インダストリアル・バンク・オブ・ジャパン・リミテッド)

總 裁 小 野 英 二 郎

右行印ヲ證明ス

副 總 裁 松 本 重 威

署名立會證人 天 宅 敬 吉

上記ノ一番抵當七分利減債基金附金貸工ノ號社債共總額金壹千五百萬弗ハ米國紐育州法ノ下ニ設

立サレタル株式合資組合「デイロン・リード・エンド・コンパニー」ニヨリ發行價格「八十三パーセン
ト」ノ割合ニ於テ一手引受セラルベキモノ也

右證據ノ爲メ本契約ノ當事者ハ大正十三年八月一日附ノ契約トシテ茲ニ捺印ス。

大同電力株式會社 取締役社長 福澤桃介
株式會社日本興業銀行 總裁 小野英二郎

於日本東京

亞米利加合衆國總領事館

大正十三年九月十五日日本東京駐在

亞米利加合衆國領事ジエー・ダブリユー・バレンタインノ面前ニ福澤桃介自ラ出頭シタリ同人ハ餘
ニ對シ本書記載ノ法人ノ一ニシテ前掲證書ヲ作成シタル大同電力株式會社（英文ニテグレート・コン
ソリデーテッド・エレクトリック・パワー・コンパニー・リミテッド）ノ社長ナルコト前掲證書ニ押
捺セル印章ハ前記會社ノ印章ナルコト及右印章ハ前記會社ノ株主總會並ニ重役會ニ依リ附與サレタル
權限ニ依リ押捺シタルコト及彼ハ同様ノ權限ニ依リ署名シタルコトヲ承認シタリ。

日本東京駐在

亞米利加合衆國領事

ジエー・ダブリユー・バレンタイン

於日本東京

亞米利加合衆國總領事館

大正十三年九月十五日日本東京駐割

亞米利加合衆國領事ジエー・ダブリユー・バレンタインノ面前ニ小野英二郎自ラ出頭シタリ同人ハ
餘ニ對シ本書記載ノ法人ノ一ニシテ前掲證書ヲ作成シタル日本興業銀行（英文ニテゼ・インダストリ
アル・バンク・オブ・ジャパン・リミテッド）總裁ニシテ前記ノ證書ニ押捺セル印章ハ前記會社ノ印
章ナルコト及右印章ハ前記會社ノ株主總會並ニ重役會ニヨリ附與サレタル權限ニヨリ押捺シタルコト
及彼ハ同様ノ權限ニ依リ署名シタルコトヲ承認シタリ。

日本東京駐在

亞米利加合衆國領事

ジエー・ダブリユー・バレンタイン

第一 大同電力株式會社七分利付米貨債關係

九六

(二) 大同電力株式會社七分利付米貨社債券面譯文

前掲(一)ノ信託證書ニ登載(三頁)セルヲ以テ省略

（以下は極く小さい印刷文字で記述されています。内容は債券の訳文であることが推測されます。）

第二 大同電力株式會社六分半利付米貨社債關係